

令和3年度厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）  
分担 研究報告書

社会生活力を客観的に測ることのできるオリジナル評価指標の開発

研究分担者	小島 正平	かがわ総合リハビリテーションセンター	成人支援施設長
	田中 康之	千葉県千葉リハビリテーションセンター	地域リハ推進部長
研究協力者	遠藤 紫乃	一般社団法人 スターアドバンス	代表理事
	青木 一男	神奈川県総合リハビリテーションセンター	七沢自立支援ホーム副所長
	篠山 潤一	兵庫総合リハビリテーションセンター	自立生活訓練部部长
	篠原 正倫	千葉県千葉リハビリテーションセンター	更生園支援部部长
	高浜 功丞	千葉県千葉リハビリテーションセンター	成人療法室 作業療法科長

研究要旨

令和2年度の研究にて、自立訓練（機能訓練・生活訓練）の評価指標においては、ADL、IADL、社会生活力、就労を測る評価指標が必要であるとの結論に至った。ADL、IADLの評価は既存の評価指標が活用できると思われる、また就労については、目的達成が明確なため、利用終了後の進路（帰結状況）による評価も可能と思われる。社会生活力の評価指標では、FIM、IADL尺度、実用的歩行能力分類、LSAでは部分的にしか評価できず、RAS、WHO/QOL、WHO-DASでも訓練・支援の成果としては直接的に評価できないため、それらの単純活用又は組み合わせのみでは難しく、本調査の評価指標を研究する中で、社会生活力を客観的に測ることのできる独自の評価指標を考案することが望ましいとの結論から、社会生活力を客観的に測ることのできる独自の評価指標の開発が必要となった。

A. 研究目的

自立訓練は十分な効果がある支援プログラムにより行われるべきであり、この効果を実証するための標準的な評価手法があるべきである。「自立訓練の実態把握に対する調査研究」の報告からはそれぞれの事業所により訓練内容や質が異なること、社会リハビリテーションの内容の広さもあって、適切に標準化された評価手法が確立されていないことが課題として挙げられている。本研究はそれぞれの事業所において標準的な評価手法のもとに十分な効果がある支援プログラムが利用者全てに適用されることを目的として行う。

B. 研究方法

1. 調査内容の検討

構成概念の形成

(1) 客観的指標となりうる項目の抽出

令和2年度研究の対象となった、FIM、IADL尺度、RAS、WHO/QOL、WHO-DAS、LSA、実用的歩行能力分類の7つの指標のうち、ADLを評価するFIMを除く6つの評価指標から、観察等により第三者が評価しうると見込まれる項目について抽出した。（表1～6）

(2) ICFのカテゴリーによる整理

カテゴリー整理について、IADLや社会生活力についての概念整理が難しいことから、客観的指標

となりうる項目を、ICFの概念を活用して分類し、機能訓練、生活訓練共通の支援範囲と思われる「活動」「参加」に該当する各指標の項目を、IADL、社会生活力、就労を測る自立訓練共通の評価対象としてみた。また、ADLの評価対象については、令和2年度の調査で機能訓練、生活訓練共にADLの評価指標として有効であったFIMの項目をそのまま評価対象とした。(図1)

### (3) 構成概念整理

社会生活力に関する先行研究、文献検討が見当たらないため、自立訓練事業所等で活用されることを目的とした、社会生活力を高めるためのプログラムを実施するための手引書である「社会生活力プログラム・マニュアル(自分らしく生きるために)」※1で設定された24のモジュールと比較し共通の構成要素となる部分を、13の項目に再整理し、オリジナル指標の指標項目として設定した。なお、ADLに関してはFIMをそのまま活用できると思われたためことから割愛した。(図2)

## 2. 調査項目案、マニュアル作成

各項目における評価の対象・範囲、採点基準等FIMの採点基準、表記等を参考に、採点基準、表記等を検討し、評価指標素案を作成した。また、併せて活用のためのマニュアル案を作成した。

### (1) 項目検証

分担研究者、研究協力者等の関係する事業所の協力を得て、利用者10事例に対して試験実施し、検出能力の確認、評価上の課題等の抽出等を行い修正し、「社会生活の自立度評価指標SIM(Social Independence Measure)」(試行調査版)を作成した。

### (2) 項目マニュアル

#### 1) 試行版SIMの項目について

「社会生活の自立度評価指標SIM(Social Independence Measure)」の内容(以下「試行版SIM」とする)は前項で上げたICFの分類に基づいてカテゴライズした結果、以下の通り、「社会生活を維持するための活動」7項目、「社会

の一員として積極的に参加するための活動」項目6項目、「共通項目」1項目となった。また、3つの選択項目と1つの必須選択項目を設けた。

#### 【毎日の社会生活を維持するための項目】

##### ①健康管理

社会生活が維持できる程度に健康をコントロールできているかについて、医療的な管理では医師の指示を守り受診や内服を適切に行うことで健康状態を維持し、生活面では運動習慣や生活習慣において逸脱していないかを評価する事とした。

##### ②金銭管理

日常的に使用する金銭について適切な使用ができていないかについて、生活を維持できる程度の計画的な金銭の使用ができていないかを評価する事とした。

##### ③身の回りの管理

家庭での日常生活に必要な管理を行い生活ができていないかについて、衣類の管理や家内の整理整頓、災害対策及び防犯意識について評価する事とした。

##### ④買い物(買い物先までの移動を除く)

日常的な買い物が適切に行えているかについて、購入したい商品(必要物だけでなく嗜好品含む)を選択し金銭等のやりとりができるか、また持ち運び等ができるかについて評価する事とした。通販、ネットでの購入を含む。

##### ⑤家事活動(調理含まず)(選択項目)

調理以外の家事活動として掃除、洗濯、ごみ出しなど毎日の生活の中で行われる家事について、基本的な行動が行えているかを評価する事とした。

##### ⑥調理(選択項目)

献立づくり、調理、配膳、片付け、食材の管理等の調理に要する一連の行為をしているか又は出来る状態にあるかについて評価する事とした。ただし一連の行為の質は問わない。

##### ⑦生活のセルフマネジメント

3日間、ひとりで安全に社会生活を送っているか又は出来る状態にあるかについて、単身生活、家族が不在時の生活を想定し、活動状況や生活習慣、安

全性を評価する事とした。

【社会の一員として積極的に参加するための項目】

⑧公共交通機関を利用するの外出又は自動車運転  
(必須選択項目 どちらか選択)

公共交通機関を利用するの外出(二者択一項目)

公共交通機関を利用して外出しているか又は出来る状態にあるかについて身近な公共交通機関のみの利用を評価対象として時刻表や経路判断、乗降動作や解除以来、利用料の支払いなどの行為を評価する事とした。

自動車運転(二者択一項目)

自動車を運転して外出しているか又は出来る状態にあるかについて実用的に利用している場合に評価する事とした。利用頻度は問わない。

⑨人間関係

他者との人間関係を築き、ある程度継続的な関係にある人(業務における支援者は含まない)を対象に相互交流を維持しているかについて評価する事とした。

⑩仕事/学校(選択項目)

就労又復職、就学又は復学しているか又は見込みとなっているかについて週 20 時間以上の労働(就労継続支援 A 型事業所を含む)及び各種学校(通信講座は含まない)を対象に評価する事とした。

⑪余暇活動

趣味や楽しみのための外出や地域での活動をしているかについて、日常生活上必要な行為以外の外出した場合での楽しみや活動全般を対象に評価する事とした。障害により外出が難しい状態にある場合のみ、オンライン上での他者との交流のある活動を含む。

⑫日中活動

孤立することなく社会とのつながりのある活動をしているか又は出来る状態にあるかについて、他者との交流活動が日常的に行えているかを評価する事とした。家庭内活動は含まない

【共通項目】

⑬制度・サービス活用

必要な制度やサービスを理解し、自らの選択、判断により活用しているかについて概要の理解及び利用方法を把握し行動しているかを評価する事とした。

2) 項目の選定と採点の対象

項目の選定にあたって自立訓練の限られた環境においては、項目概念そのものが広く、網羅的に測ることは不可能であるため、測定可能性の低いものは評価の対象としては扱わず限定的にした。

また、自立訓練利用中の社会生活の自立度の変化を測ることが目的であるため、採点に当たっては、必要に応じてプログラムや生活の中で状況を確認できる場面を設定する等し、十分なアセスメントに基づき採点することとして、ICF が示すように、身体機能や障害の理解、精神面の変化が活動や参加に反映されることから評価対象から省いた。

3) 採点方法

基本的な採点基準を 7 段階の得点により採点し 7、6 を《自立》とし、5~3 を《部分的支援が必要》、2~1 を《全面的支援が必要》とした。また評価を行うにあたって、地域生活及び社会生活の個別性により評価実施の選択項目を以下の通りとした。

・必須項目

「健康管理」「金銭管理」「身の回りの管理」「買い物」「生活のセルフマネジメント」「人間関係」「余暇活動」「日中活動」「制度・サービス利用」

・必須選択項目(いずれかを必ず選択)

「公共交通機関を利用するの外出」「自動車運転」

・選択項目

「家事活動」「調理」「仕事/学校」

【選択項目数による補正】

選択の有無で得点に優劣が付かないよう評価実施項目数により得点倍率を以下の通りとした。

・評価実施項目数 13 項目の場合 ×1.0

・評価実施項目数 12 項目の場合 ×1.084

・評価実施項目数 11 項目の場合 ×1.182

・評価実施項目数 10 項目の場合 ×1.3

※項目毎の基準や解説についての詳細は後述「E. 結論の3. 採点基準について」を参照  
以上に基づき採点表を作成し、項目ごとの基準をマニュアル化した。

### 3. 試行調査

#### (1) 評価指標による測定実用性の確認

試行版 SIM について、対象障害種ごとに、利用時と終了時の変化を適正に捉えられるかを確認及び検者間信頼性を確認した。

#### (2) 調査内容

試行版 SIM の試行調査を行うにあたって、既存指標である FIM を合わせて調査する事で社会リハビリテーションの支援効果として機能面だけでは測れない変化を捉えられるかを検証した。採点は利用者の状況をよく把握している支援者が行い、試行版 SIM の採点基準の整合性を図るため、利用者1人につき2人の支援者が別々に採点した。また利用時の採点は初期のアセスメント、個別支援計画等を参考に当時の状況を振り返って採点した。

採点者から、採点と併せ、採点結果を妥当と感じるか等の意見、採点上の課題等の意見も集約した。

#### (3) 調査期間

2020年10月22日～11月12日

#### (4) 調査対象

##### 1) 障害種別

自立訓練の主な対象者である10障害を選定した。

##### 【機能訓練事業】

①片麻痺（高次脳、失語なし）、②片麻痺+高次脳、③片麻痺+失語、④脊髄損傷（頸髄損傷、脊髄炎を含む車いす利用者）、⑤視覚障害、⑥聴覚障害

##### 【生活訓練事業】

⑦知的障害、⑧精神障害、⑨発達障害、⑩高次脳機能障害（身体なし）

##### 2) 利用形態と進路

利用形態として通所利用、入所利用、宿泊型自立訓練の3形態と男女、帰結として地域復帰又は就

労 or 就労移行 or 復学を分けた。

##### 3) 対象数

○宿泊型を除く組み合わせ

10障害×6形態×2事例＝120事例

○宿泊型

2障害×1形態×5事例＝10事例

（障害は知的・精神のみで形態は宿泊型）

※H30の推進事業調査では、宿泊型の利用者の障害種別は、知的47.4%、精神47.1%であった。

計130事例×2（検査者）＝260件

※機能訓練は72事例、生活訓練は48事例、宿泊型は10事例。

※障害種では各6事例（宿泊型を含むと知的、精神が11事例となる）

※利用形態と進路等では各10事例

## C. 研究結果

### 1. サンプル数

試行調査によって118事例 236件のデータ（試行版 SIM）を収集した。（表7）

### 2. 分析

#### (1) SIM と FIM の変化の検出度

事業形態別の総利得の平均値の差では、機能訓練では試行版 SIM が FIM に比べ1.9倍～2.0倍利得が高く、生活訓練では、2.3倍～2.7倍利得が高かった。これを利得率でみると、機能訓練では試行版 SIM が FIM に比べ2.9倍～3.0倍利得率が高く、生活訓練では、3.4倍～4.0倍利得率が高かった。（表8）

※利得率：最小可能利得と最大可能利得の差を100とした時の総利得の割合

##### 1) 試行版 SIM

最小値13、最大値91であるため、その差78=100

##### 2) FIM

最小値18、最大値126であるため、その差108=100

試行版 SIM は、FIM に比べ、自立訓練の利用者の変化に対する高い検出度があった。

## (2) 利得差

### 1) 事業形態の比較

機能訓練、生活訓練の比較では、試行版 SIM、FIM とともに、利用時、終了時の利得差、総利得差ともに平均値の差に有意差は認められなかった。試行版 SIM の項目ごとの利得差の比較では、「健康管理」「調理」「移動」のいずれの平均値の差においても機能訓練が有意に高かった。

(表 9) (図 3)

### 2) 障害種別の比較

身体障害、精神障害では、試行版 SIM、FIM とともに、利用時、終了時の利得、総利得ともに平均値の差に有意差は認められなかった。試行版 SIM の項目ごとの利得の比較では、「買い物」「調理」「移動」の平均値は、身体障害が有意に高く、「人間関係」の平均値は生活訓練が有意に高かった。

(表 10) (図 4)

#### 【障害種別詳細 (参考値)】

試行版 SIM、FIM とともに、利用時、終了時の利得の平均値は視覚障害が最も高く、発達障害が最も低かった。総利得の平均値では、試行版 SIM では片麻痺(高次脳・失語なし)と高次脳(失語あり)が最も高く、精神障害が最も低かった。一方、FIM では片麻痺(高次脳・失語なし)が最も高く、視覚障害が最も低かった。

各障害種別の詳細ではサンプル数が少ないため、傾向を分析できるまでには至らなかった。聴覚障害は事業所が少なく十分なデータが得られなかった。(表 11)

### 3) 利用形態の比較

入所と通所では、試行版 SIM では、利用時、利用終了時とも通所の平均値が有意に高かったが、総利得の平均値では有意差は認められなかった。FIM では、全てに有意差は認められなかった。試行版 SIM の項目ごとの利得の平均値の比較では、「健康管理」「身の回り」「買い物」「家事活動」「セルフケア」の平均値は入所が有意に高く、「人間関係」「余暇活動」の平均値は通所が有意に高かった。

(表 12) (図 5)

少ないサンプルでは、宿泊型は、入所、通所に比べ利得が低く、訪問支援は更に少なかった。

### 4) 性別の比較

性別では、試行版 SIM、FIM とともに、利用時、終了時の利得、総利得ともに平均値の有意差は認められなかった。試行版 SIM の項目ごとの利得の平均値の比較では、「調理」の平均値で女性が有意に高く、「セルフケア」の平均値で男性が有意に高かった。

(表 13) (図 6)

### 5) 進路の比較

進路は、試行版 SIM では、利用時、終了時の利得、総利得ともに「就労または復学」している方が「地域復帰」より平均値が有意に高かった。FIM では、利用時、終了時の利得で、「就労または復学」している方が「地域復帰」より平均値が有意に高かったものの、総利得の平均値の差では有意差が認められなかった。試行版 SIM の項目ごとの利得の比較では、「就労または復学」が、「移動」「仕事/学校」「制度活用」の平均値において有意に高かった。

(表 14) (図 7)

### 6) 利用日数と利得値の関係

利用日数と利得値に強い相関関係は認められなかった。(図 8)

利得値 : FIM=0.208/SIM①=0.127/SIM②=0.129

### 7) 検者間信頼性

第一検者と第二検者の比較において、検者間信頼性では完全一致率を検証し、約 6 割が完全一致した。(表 15)  $\pm 1$  を含めると 8 割から 9 割の一致が見られたが、評価基準となる蓄積された事例が無く、また検者間の職種の違いにより評価視点が異なる課題が残った。

### 8) 試行版 SIM に関する意見

『SIM の効果について』

・専門職以外でも生活場面を知る職員であれば採点できるため、とても使いやすい。使われている言葉も十分理解できる内容であった。

・FIM の著明な向上が無くても社会生活力が向上していると感じた利用者のアウトカムが反映しや

すい。逆に身体機能・ADLが向上しても生活力や管理能力が伸びていない場合も評価に反映するため、利用終了後の方向性の指標になる。

・歩行能力が大きく改善した利用者に対して、FIMでは6点で増加がないが、SIMでは公共交通機関の単独利用が可となったことで高い利得が得られた。

・「近くで暮らす孫と一緒に遊びたい」との希望のある単身女性が、体力や運動機能面の向上により、孫との遊びの時間の拡大や通所を通じて他者との交流拡大があったため利得に反映された。

『検者間の差について』

・全体として担当であれば記載できると思われる。担当でない職員は情報量が少ないため採点しづらい傾向にある。情報収集した上で行うと採点できた。

・検者間で持っている情報が異なるため採点に差が出た。

・検者間で情報量の違いがあるため、得点の差がある。

・採点者により評価が分かれ、得点差が大きかった。試行版SIMマニュアルの理解不足によると思われる（学習機会が必要と感じた）。

評価する上での課題等についての意見、質問等については、「C. 考察」の項で後述する。

### 3. 検証結果

#### (1) 試行版SIMについて

自立訓練の利用者の変化を捉えられたこと、事業種別、利用形態、性別の総利得に有意差が認められなかったことから、試行版SIMを自立訓練の評価指標とすることができそうである。但し、宿泊型、訪問支援については、サンプル数が少ないため分析ができなかったため除外する。また、総利得に有意差が認められなかったものの、項目ごとには有意差が認められたものがあったことから、一部の項目のみを取り出しての部分的な活用はできない。

進路で「就労または復学」が優位に高いことは、

就労等に結び付いたものを高く評価できるよう意図したことが、結果として表れたものであったが、「制度活用」の項目においても利得が高かったのは予想外であった。

障害種別詳細においては、それぞれの利得差の平均値に差が見られたが、サンプル数が少ないことから、障害特性による違いであるとは言えないため、データが得られなかった聴覚障害も含めて、障害種別詳細にける試行版SIM活用による効果検出程度の差については、更に調査を行い明らかにする必要がある。また、その場合に、実施されているプログラムとの関係についても研究する必要がある。

採点基準の表現については、障害特性に応じた表記方法を再考することにより検出度の向上が図れる可能性については吟味する必要がある。

採点基準については、FIMの採点基準を参考とした。検者間信頼性についてデータ上は高い信頼性が得られたものの、検者の自由意見などからも採点のし辛さが窺えた。そのため、より採点しやすいよう、採点基準の表記や解説等を再考する。

#### (2) FIMについて

「事業種別」「障害別」「利用形態」「性別」では、総利得の平均値の差では、試行版SIMと同様に有意差はみられなかった。「進路」については、利用時、終了時の利得では、試行版SIMと同様に「就労または復学」している方が「地域復帰」より平均値が有意に高かった。ただし、試行版SIMでは総利得の平均値で「就労または復学」と「地域復帰」に差が認められたのに対し、FIMでは認められなかったことから、ADLの状態は進路に影響するが、変化による影響は少ないと考えられる。

以上のことから、試行版SIMのみを自立訓練の評価指標とすることに問題はなさそうであるが、障害種別ごとの状況について精査する必要があることから、現段階ではFIMの併用の可能性については保留とする。

## D. 考察

### 1. 試行調査結果を踏まえた SIM の修正

試行調査の結果では、自立訓練の利用者の変化を捉えられたこと、事業種別、利用形態、性別の総利得に有意差が認められなかったことから、概ね試行版 SIM を自立訓練の評価指標とすることができそうであることが分かった。また、検者間信頼性についてもデータでは高い信頼性が得られた。一方で、検者の自由意見などからは採点のし辛さが窺えた。そのため、より採点しやすいよう、採点基準の表記や解説等を再考した。また、障害特性に応じた表記方法についても再考した。

#### (1) 研者からの自由意見についての検討

##### 1) 表記上の課題

研者から以下の質問、意見があった。

- ・すべての項目で 5 点と 6 点で判断がしづらい。日中活動では、5 点の「周囲からの呼びかけをきっかけに」と 4 点の「周囲の人からの情報提供」の表現がよく似ている。
- ・金銭管理で 3 点から 6 点までの違いが分かりにくかった。
- ・採点基準 5 点（見守り）の中に、評価項目によって時々促しや助言が含まれるものもあれば、軽度の見守りとなっているものもあるため判断に迷うことがあった。
- ・調理の項目で、調理はしないが準備はできる（購入してきたお弁当を適切に保管・喫食・破棄ができる）は自立（6～7 点）とすべきか。
- ・余暇活動と日中活動の項目の差が分かり辛く感じられた。
- ・公共交通機関と自動車運転を両方支援している場合、点数の上り幅が大きい方を採用してよいか。
- ・ある者とは友好的な関係が築けるが、別の者とは対立するという場合の採点に困った。
- ・生活のセルフマネジメントで、体調に日差がある場合の採点に迷った。
- ・SIM の評価について、もっと具体的に事例などが書いてあると評価しやすい。
- ・条件のボリュームが多く、誰もが評価しづらいと

感じた。

解釈上の迷いや分かりにくさに対しては、表現の変更・統一、解説の追加、文章の簡素化を行った。また、マニュアルの「II 採点基準について」「(2) 採点」の文中で、介助や援助が必要な 4～1 点のレベルについても「ここでの『自分で行う』も、自助具の活用、自らが選択、利用、指示、調整して介助サービス等を利用する場合を含んだ。ただし、選択項目の「5. 家事活動」「6. 調理」「8 (2) 自動車運転」は活動そのものを自分自身で行えるかを評価するものであることを明確に伝えるために、介助サービス等の利用は含まなかった」を追記し、各項目の「解説」にも相当する文を追記したことで、主体的にヘルパー等の人的サービスを利用することを自立に含めていること、「調理」のように、自己で行うことを自立としたものを明確に分けていることを明示した。

##### 2) 採点上の課題

- ・健康管理では、入所中の場合、終了前も受診の日程等は看護師が管理しているため、6 点にしづらい。
- ・通所であるため習慣化できているかどうかの判断がわかりづらい。
- ・評価者の主観が入ってしまう。
- ・客観的データがとりづらい。
- ・身の回りの管理では、例にあるような電球の取り換えや訪問セールスの対応などは施設の環境では評価できない。例示である旨と環境に応じて利用開始時に評価していない項目も含めて評価した方が、利用終了前の評価との対比がわかりやすい。
- ・家事活動、生活のセルフマネジメントの一部を行っている場合（他は家族が元々担っている場合）に、点数が低くなる。
- ・家事活動の洗濯で、施設入所の場合、「自分で洗濯する」にはシーツの洗濯や布団乾燥機をかける等の支援者の支援は採点に影響するか。
- ・人間関係について、通所時は職員や他利用者とはコミュニケーションをとっていたが、プライベートでの友人については関係性を把握していない。
- ・サービスを導入したことで点数がマイナスにな

ったが、生活の安定や質の向上はみられていると感じている。

・制度サービスは初めに設定した 2 つについてのみ評価するのか、途中でサービスが変われば評価する 2 つも変えてよいか。

研者のこれらの意見からは、自立訓練において、利用者の社会生活の状況を把握しにくい状況があることが窺えた。一方で、社会リハビリテーションを実施することが自立訓練事業所の役割であることから※2,3、自立訓練事業所での社会生活力を高めるためのプログラム・支援の実施は必須である。そのためには、入所利用においても、利用者の様々な場면을自立に向けた支援場面として捉えプログラム化する等の工夫が必要である。当然、実施したプログラムや支援に対する効果測定も必要になってくる。

SIM の導入は、自立訓練事業所が、社会生活力を高めるという観点から、各項目に対しての支援の在り方を検証し、必要なプログラム・支援やそれを客観的に評価できる方法を整えていくことに繋がる。

### 3) 表記と採点の対策

マニュアルの「Ⅱ採点基準について」「(1)採点の対象と方法」の文中に、「採点に当たっては、必要に応じてプログラムや生活の中で状況を確認できる場面を設定する等し、十分なアセスメントに基づき採点する（状況を確認できる場面がない場合は、新規に場面を作成するか代替手段を検討し、なるべく予想や予測では採点しないようにする。」と表記したが、今回の修正では、更に「必要に応じてプログラムや生活の中で状況を確認できる場面を設定する等し」に下線を追加し強調した。また、各項目の解説での、「入所の場合、施設の規則として単に酒やたばこを禁止しているだけの場合は、利用者の主体的な行動変化を確認できないため、まずは確認できる環境の設定が必要です。」「入所生活の場合は、施設内の身の回りの管理状態を観察することで採点します。その際に、利用後の生活をイメージし自己管理する部分をつくり評価でき

るようにしておく必要があります。また、可能であれば家庭実習や模擬生活体験等を行い、より実際的な評価できるようにしてください。」等の記述により、自立訓練の全ての場面が、利用終了後の社会生活に向けた自立支援の場であることを意識化した取り組みができるようにした。

自立訓練を実施する事業所が、それぞれの状況に応じてプログラムや支援を工夫していくことが望まれることから、SIM は、事業所の置かれている状況に応じて工夫できるよう、評価場面の設定や条件を厳格にせず、ある程度の幅を持たせている。そのため、SIM は事業所評価とはなりうるが、設定できる評価環境が事業所により様々なことから、現段階では、利用者の状態の客観的に評価するスケールとするまでには至っていない。しかしながら、事業所と同様に、利用者の置かれている地域や、社会資源の状態等に様々な違いがある中で、利用者の支援を画一的に実施し評価することは困難であり、望ましいとは言えない。また、事業所が設定できる評価場面については、スタッフの人員体制や設備面等に左右されるため、事業所に対しとて公正な評価をするためには、全国の自立訓練事業所の整備を後押しできるような仕組みづくりが必要である。

### 4) 評価基準の課題

・「交通機関利用」の項目で地域によってはバスや電車がほとんど無く、タクシーのみが実用的な移動手段の方がいるため、公共交通機関を利用しでの外出で、タクシーの利用（予約・乗り込み・介助の依頼・目的地の説明・支払い等）が適切にできる利用者は自立として良いのではないかと。

・「人間関係」の項目で自宅内であっても定期的に友人と電話連絡を取り合う、隣人と話す、友人が遊びに来て交流するなど社会参加と評価できるのではないかと。

・「余暇活動」「日中活動」の項目で余暇活動と日中活動は、双方ともに地域での活動、他者交流がポイントとなっているようだが、閉じこもり防止という観点において一人で出かける釣りやウォーキン

グ・ランニング・一人旅などの余暇・日課に関して、その方らしい社会参加だと思う。「人と意図的に交流しなければ社会参加と言えない」という採点方式は、少し寂しい。

・「余暇活動」の項目については、自宅外での活動と限定されるのであれば、「地域での他者との交流」等と名称を変更された方が分かりやすい。

・「日中活動」にデイケア等のサービスが含まれているため、自立訓練の通所も含む方が、整合性がとれて良い。

#### 5) 全般的な課題

・障害種別や利用目的によっては SIM 得点に現れ辛いパターンがあると思われる。特に失語や引き籠もりで地域復帰事例は家事動作の必要性が無く、社会参加機会が少ないと得点が伸びにくい。

・提供する支援内容（プログラム）によって、評価の伸びが変わると思われるため、標準的プログラムを併せて効果測定する必要がある。

#### 6) 基準と全般的な対策

「交通機関利用」については、地域特性を考慮しタクシーの利用を含んだ。「人間関係」については、特に評価場面の設定は設けておらず、自宅内を除外していないため変更しなかった。「余暇活動」「日中活動」の意見は、社会生活・社会参加をどう捉えるかという問題提起であるが、利用者個々によっても様々なナラティブがあることから、評価指標としては社会生活・社会参加を地域・交流等で概念を単純化せざるを得ないと思われる。「余暇活動」では、障害により外出が難しい場合を除き、自室で行うものを除外しているため、項目名を「地域での余暇活動」と改めた。

全般的については、家事動作は選択制で除外しても点数が下がらないようにしているため問題ない。SIM が利用時と終了時の差を捉えるものであることから、利用時から社会参加機会が多く得点が高い場合にも変化が出にくく、最初の状態の良し悪しとはあまり関係ない。「標準的プログラムを併せて効果測定する必要がある」という意見は当然であり、SIM による評価が、実施されているプロ

グラムや支援の効果を測定し、そのことが事業所評価となる。

#### (2) 聴覚障害者を対象とした自立訓練の SIM 活用に向けての検討

現在、聴覚障害者対象に自立訓練を実施している事業所は、全国に4カ所と僅かしかない。また、事例の少なさから、今回の調査では試行版 SIM の有効性を把握できなかった。そこで、聴覚障害者に対する自立訓練を実施している事業所に対して聞き取り調査を実施し、関連研究も参考にし、聴覚障害者を対象に試行版 SIM が活用できるか検討した。

### 2. SIM 項目設定の妥当性について

#### (1) 日常生活、社会生活の自己チェックシート

京都府聴覚言語障害センター「みなみかぜ」では、「日常生活、社会生活の自己チェックシート」を活用し支援効果を測っている。以下がその項目となる。これらの項目は、聴覚障害者の日常生活・社会生活の支援項目として捉えることができる。

- ・自分が日常生活で困っていることを理解している
- ・日常生活や社会生活で活用できる様々なサービスを知り、それらのサービスを活用して社会参加している
- ・周囲の住民や、職場の同僚などに自分の障害や困っていることを話している
- ・自分は主体的な生き方をして楽しく、充実した生活を築いていると思う
- ・周囲の住民との地域活動や職場の同僚とサークル活動等をして、感情の共有ができていると思う
- ・不合理なことに対する自分の思いや、自分が必要と思う支援などを、周囲の住民や、職場の同僚などに伝えることができると思う
- ・新たな人間関係を作り、自分の可能性に気付く等、自分の中で変わったと思えるものがある
- ・中途失聴・難聴者協会など当事者団体の活動や役割を知っている

#### (2) 難聴者を対象とした支援に関する調査

京都府立大学と京都府難聴者協会が共同で、

2019年に、全国の関係施設、関係団体300ヶ所を対象に、「難聴者を対象とした支援に関する調査」を行っている※4。その報告書において、社会生活力を高めるプログラムの実施状況についての調査結果が示されている。社会生活力プログラムを実施していると回答した施設・団体76のうち、最も多いのが聴覚障害者義歩提供施設(43.4%)、次いで障害者支援施設(25%)であった。(図9)

### (3) 試行版 SIM との項目比較

試行版 SIM の各項目に、対応する①日常生活、社会生活の自己チェックシート、②「難聴者を対象とした支援に関する調査」の「社会生活力を高めるプログラム」の項目を当てはめてみた。(表16)

### (4) 比較結果のまとめ

試行版 SIM 項目の「8(1). 公共交通機関の利用」や「8(2). 自動車運転」については、「チェックシート」「調査項目『社会生活力』」に直接的な言葉としては該当するものはなかったものの、試行版 SIM の他のすべての項目については、「チェックシート」「調査項目『社会生活力』」で該当する項目があった。

試行版 SIM に該当する項目の無い「チェックシート」の項目「④主体的に充実した生活」や「⑦人間関係・自信」の「自信」の部分や、試行版 SIM に該当する項目の無い「調査項目『社会生活力』」の「聴覚補償」、「情報アクセス」、「自分と病気・障害の理解」の病気の理解以外の部分については、試行版 SIM マニュアル文中で、「ICF が示すように、身体機能や障害の理解、精神面の変化が活動や参加に反映されることから評価対象から省いた。」としているのと同様に、直接的に項目設定せずともそれらの変化が各項目に反映されると思われる。

試行版 SIM の項目の「8(1). 公共交通機関の利用」や「8(2). 自動車運転」は、「調査項目『社会生活力』」の「外出」に含まれるが、後に記述した聞き取りの結果からは、活動範囲が限定される等の課題があることが窺われ、聴覚障害においても評価対象として差し支えないと思われる。

以上のことから、比較材料の目的や構成等が異

なるため概観的な比較となるものの、聴覚障害者を対象とした場合にも試行版 SIM の項目を活用することに問題はないように思われた。

### 3. 試行版 SIM の採点基準について

聞き取り調査からは、中途失聴者の場合、一応の買い物はできているものの、視覚情報だけでは分からない場合に店員に聞くことができず又躊躇し限られた物しか購入しない、購入しようとした物をキャンセルしたい場合にも、店員とのやり取りが上手くできず又躊躇し諦めてしまうといった、見守りを要していないものの活動範囲や選択の幅が極めて少ないものが、様々な場面で見られることが分かった。この場合は、これまでの試行版 SIM の採点では、見守りが無いために、「自立6点 現段階で自立している場合」となる可能性があった。そのことは、聴覚障害に顕著とはいえ、どの障害に種別にも当てはまる。そのため、活動の質そのものを測ることは難しいものの、活動制限があるため生活が制限されている場合には評価ポイントとできるよう採点基準を設けるとよいと感じた。

以上のことから、採点項目5点の「見守り」を、「見守り 限定した活動状態」とし、「見守り、時々の促し・助言が必要な状態」に「見守り等は必要ないが、限定的な活動となっている状態」を加えた。

## E. 結論

研究調査し自立訓練の特性を分析した結果、社会生活力を客観的に測ることのできる独自の評価指標として以下の指標を開発した。

### 1. 名称

社会生活の自立度評価指標 SIM  
(Social Independence Measure)

本評価指標(以下「SIM」)は、障害者総合支援法における自立訓練(機能訓練・生活訓練)の利用者の社会生活の自立度を測るために試作されたものであり、それ以外の場面での活用は想定していない。

## 2. 評価項目について

FIM、ロートン IADL 尺度、RAS、WHO/QOL、WHODAS、LSA、実用的歩行能力分類の各項目内容、「社会生活力プログラム・マニュアル～自分らしく生きるために～（全障害対象版 中央法規）」で設定された項目を比較検討し、「社会生活を維持するための活動」項目として、「健康管理」「金銭管理」「身の回りの管理」「買い物」「家事活動」「調理」「生活のセルフマネジメント」の7項目、「社会の一員として積極的に参加するための活動」項目として、「公共交通機関を利用するの外出」「自動車運転」「人間関係」「仕事/学校」「地域での余暇活動」「日中活動」の6項目、「共通項目」として「制度・サービス利用」の1項目を設定した。

なお、ICFが示すように、身体機能や障害の理解、精神面の変化が活動や参加に反映されることから評価対象から省いた。

## 3. 採点方法について

### (1) 採点の対象と方法

自立訓練の限られた環境においては、項目概念そのものが広く網羅的に測ることは不可能であるため、測定可能性の低いものは評価の対象としては扱わず限定的にしている。また、自立訓練利用中の社会生活の自立度の変化を測ることが目的であるため、採点に当たっては、必要に応じてプログラムや生活の中で状況を確認できる場を設定する等し、十分なアセスメントに基づき採点する（状況を確認できる場面がない場合は、新規に場面を作成するか代替手段を検討し、なるべく予想や予測では採点しないようにする。ただし、7点を採点する場合については、アセスメント結果にて予想を立て評価する）。

### (2) 得点

7段階の得点により採点し、7点、6点を《自立》とし、5～3点を《部分的支援が必要》、2～1点を《全面的支援が必要》とした。7点を、安定性や対応力が高い自立レベル「継続自立」とし、6点は、評価時点で自立している「自立」とし、店員や窓口

担当等に問い合わせる等、通常ある人的資源の活用を含んだ（7点、6点ともに、自助具の活用を含み、自らの意思で選択、利用、指示、調整して利用する介助サービス等を含んだ）。また、5点を見守りレベルとし、4～1点については介助や援助が必要なレベルとし（6点に相当する介護を除く）、4点を「75%以上自分で行う」、3点を「50%以上75%未満自分で行う」、2点を「25%以上50%未満自分で行う」、1点を「25%未満自分で行う」とした（ここでの「自分で行う」も、自助具の活用、自らが選択、利用、指示、調整して介助サービス等を利用する場合を含んだ。ただし、選択項目の「5. 家事活動」「6. 調理」「8 (2) 自動車運転」は活動そのものを自分が行えるかを評価するものであるために、介助サービス等の利用は含まなかった）。

※7点、6点の概念はFIMの「完全自立」「修正自立」と異なることに注意。

### (3) 採点の時期

利用による変化を測る（1回目の採点結果と2回目の採点結果の差を測る）

#### 1) 1回目の採点

概ね利用開始後2カ月以内に行う（暫定期間中最初の個別支援計画の作成のためのアセスメント時）

#### 2) 2回目の採点

概ね利用終了前1カ月以内に行う（最終の個別支援計画の作成のためのアセスメント時）

※期間中に評価場面が設定できなかったものについては、設定後に採点する。

※3カ月、6カ月、1年ごとに採点する等、利用途中で評価することも有効である。

### (4) 項目選択の判断

選択項目のみ除外出来る。必須選択項目は必ずいずれか一方を選択。

（最大項目数13 最小項目数10）

除外できるものは、生活環境や進路から、本人と関係しないとされたもののみとなる。既に自立しているため訓練・支援が必要ないものについては除外せず7点又は6点を採点する。

除外は、単に本人の意思により判断するのではなく、アセスメント、個別支援計画等により判断されたものに限る。なお、家族が調理をする予定であったため除外したものの、利用途中で本人が調理をしなければならなくなった等で採点項目に加える場合は、その時点で評価し1回目として採点する。

#### 1) 必須項目

「健康管理」「金銭管理」「身の回りの管理」「買い物」「生活のセルフマネジメント」「人間関係」「地域での余暇活動」「日中活動」「制度・サービス利用」

2) 必須選択項目（いずれを選択しても良いが、いずれかを必ず選択）

「公共交通機関を利用した外出」「自動車運転」

#### 3) 選択項目

「家事活動」「調理」…家族等が役割を担っており部分的にも本人が行う必要がない場合に除外する。  
「仕事/学校」…将来の進路としても希望しない場合のみに除外する。

※選択項目のみ除外が出来る。必須選択項目は必ずいずれか一方を選択。

### 4. 各評価の内容と採点基準

○社会生活を維持するための活動

#### (1) 健康管理

《評価の内容》

社会生活が維持できる程度に健康をコントロールできているかを評価する。

1) 生活習慣病のある人は、受診や内服を忘れず、医師の指示を守り日常生活を送っているか（禁煙、食事制限等）、血圧、BMI、検査等の値が適切な状態で維持できているかで評価する。

2) 精神疾患のある人は、受診や内服を忘れず、医師の指示を守り日常生活を送っているか、睡眠が十分に保たれているか、日常の活動が滞りなく行える程度に精神状態を維持できているかで評価する。

3) 運動、生活状態については、事業所での健康管理上のルールを守れない場合や日常の生活を著し

く逸脱している場合のみ評価対象とする。

4) 内服等でコントロールしている場合は、コントロールされている状態で各数値が正常値内に収まっている、日常の活動が滞りなく行えている等の状態であれば維持できているとする。悪化方向に変化している場合でも正常内に収まっている場合（検査値が正常値、支障ない日常生活）は維持できているとするが、正常を超え、薬の増量等により再び正常に戻る等の場合は維持できているとはしない。

5) 急性疾患がある場合に、受診をする、薬を飲む、静養する等、回復に向けた行為を行えているか、基礎疾患や精神疾患のない人についても健康診断を受ける等、定期的に健康状態をチェックしているかを評価に含む。

6) 受診手続きの方法、医師の指示や指導を正しく理解できるか、薬の飲み方が分かるか等の理解面を評価対象に含む。

7) 難病等通常の医療では病状の進行を抑えられない疾患又は癌等のセルフコントロールが難しい疾患は評価の対象としない。

《採点基準》

#### 【自立】

(7点)自らの力で健康管理し、健康状態を維持し社会生活を送っており、長期的にも心配がない

(6点)自らの力で健康管理し、健康状態を維持し社会生活を送っている

※いずれも、自らが判断し適切に指示してヘルパー等を活用する場合、自助具の活用を含む。

#### 【部分的支援が必要】

(5点)支援者や家族等による見守り、時々々の促しや助言が必要である

(4点)支援者や家族等による日常的な促しや助言が必要である

(3点)支援者や家族等による部分的な管理が必要である

#### 【全面的支援が必要】

(2点)支援者や家族等による多くの管理が必要である

(1点)支援者や家族等による全ての管理が必要である

《解説等》

高いレベルの健康管理意識を評価するものではありません。自力で健康状態が崩れない程度にコントロールできていれば6点とします。禁煙が必要に人が、施設では禁煙を守り、施設を出ても「吸わない」との意思がある人の場合は、周囲が不安を感じていても6点となります。逆に、施設では禁煙できているが、地域に帰ったら「きっと吸う」と発言している場合は、意識に問題があり6点や7点にはなりません。

※入所の場合、施設の規則として単に酒やたばこを禁止しているだけの場合は、利用者の主体的な行動変化を確認できないため、まずは確認できる環境の設定が必要です。

病院内での診察室等への移動や窓口での手続き、薬を飲む場面等に介助を受ける場合も、自らが介助者に十分に依頼できない場合は、4~5点の「見守り、時々促しや助言が必要」か、1~3点の「管理が必要」のいずれかになります。7点の「長期的」は概ね3年程度を指します。

## (2) 金銭管理

《評価の内容》

日常的に使用する金銭について、適切に使用できているかを評価する。

1) 日常的に使用する金銭とは、月々の生活の中で使用する食費や光熱水費、家賃や交通費、生活必需品購入費、通信費、税金、保険料、医療費、貯金、小遣い等、生活に必要な支出を指す。

2) 生活を維持できる程度の計画的な金銭の使用ができていれば適切であるとする。

《採点基準》

【自立】

(7点)貯金や保険の加入等、長期的な生活を見据えた金銭管理計画を立て、適切に使用している

(6点)金銭管理計画までは立てていないが、常に所持金等を把握し、その範囲内での適切に使用している

※いずれも、自らが判断し適切に指示してヘルパー等を活用する場合、自助具の活用を含む。

【部分的支援が必要】

(5点)支援者や家族等による見守り、時々促しや助言が必要である

(4点)支援者や家族等による日常的な助言や管理補助が必要である

(3点)月ごとの小遣い程度であれば、決められた額内で使用している

【全面的支援が必要】

(2点)週単位の小遣い程度であれば、決められた額内で使用できる

(1点)金銭管理はできない。使用の都度、支払いの支援を受ける

《解説等》

管理能力があっても家庭でも配偶者にお金の管理の一切を任せている場合は3点となります。管理能力がある上で、家族と共に相談しながら共同で管理している場合は、本人が管理していることとしてかまいません。

初期の段階のアセスメントで金銭管理能力を把握した上で採点してください。

## (3) 身の回りの管理

《評価の内容》

家庭での日常生活に必要な管理を行い生活ができているか又はできる状態にあるかを評価する。

1) 靴や衣類の購入や廃棄・管理、電球等の取り換えや冷暖房器具のメンテナンス、家の中の整理整頓、自動車や自転車の保管、家の施錠や訪問セールスや不審者の対応等

2) 災害への備えについては、停電時の対応、非常持ち出し物の準備、非常時の連絡先の確保までを含み、内容の質は問わない。

《採点基準》

【自立】

(7点)自らの力で身の回りを管理し、支障なく社会生活を送っており、長期的にも心配がない

(6点)自らの力で身の回りを管理し、支障なく社会生活を送っている

※いずれも、自らが判断し適切に指示してヘルパー等を活用する場合、自助具の活用を含む。

**【部分的支援が必要】**

(5点)支援者や家族等による見守り、時々への促しや助言が必要である

(4点)支援者や家族等による日常的な助言が必要である（一連の行為を75%以上自分で行える）

(3点)支援者や家族等による部分的な管理が必要である（一連の行為を50%以上75%未満自分で行える）

**【全面的支援が必要】**

(2点)支援者や家族等による多くの管理が必要である（一連の行為を25%以上50%未満自分で行える）

(1点)支援者や家族等による全ての管理が必要である（一連の行為を25%未満しか自分で行えない）

《解説等》

評価対象は、例示に限定されるものではありません。利用者個々の状況に応じて、身の回りのことで自己管理できることが求められる採点可能なものをピックアップしてください。（家族との同居の場合は、家族が本人に自己管理してもらいたいものについても話し合っておくのもよいと思います）

入所生活の場合は、施設内の身の回りの管理状態を観察することで採点します。その際に、利用後の生活をイメージし自己管理する部分をつくり評価できるようにしておく必要があります。また、可能であれば家庭実習や模擬生活体験等を行い、より実地的な評価できるようにしてください。

評価対象としたもので、管理能力があっても家庭でも配偶者に管理を任せている場合は3点とします。「福祉サービス」については(12)で扱っています。（ ）の「自分で行える」には、自らが判断し指示してヘルパー等を活用する場合を含みますが、「いらなと思う服を適当に廃棄しておいて」といったような判断を他者に依存するような具体的でない指示の場合は「自分で行える」とはしません。（ ）の%の判断は、行えている項目の数や行えている程度の割合を基に行ってください。7点の「長期的」は概ね3年程度を指しま

す。

(4) 買い物（買い物先までの移動を除く）

《評価の内容》

日常的な買い物が適切に行えているか又は行える状態にあるかを評価する。

1) 購入したいものを見つけ選択し注文できているか、金銭等の支払いや店員とのやりとりがスムーズにできるか、店内での持ち運び等ができるかについて評価する。

2) 日常的な買い物とは、毎週、毎月、季節ごとに購入するものまでを指し、電化製品、自動車、家等、数年に一度購入するものは含まない。

3) 必要物のみでなく、嗜好品や趣味のための用品の購入を含む。

4) 店での購入の他、通販、ネットでの購入を含む。

《採点基準》

**【自立】**

(7点)自らの力で、購入物の選択、注文、金銭等の支払い、店員とのやりとり、持ち運び等の一連の行為を全て行い、買い物をしている

(6点)店員と相談しながら購入物を選択し、自らの力で、注文、金銭等の支払い、持ち運び等の一連の行為を全て行い、買い物をしている

※いずれも、自らが判断し適切に指示してヘルパー等を活用する場合、自助具の活用を含む。

**【部分的支援が必要】**

(5点)買い物は自分で行っているものの、購入物が極めて限定的で、店員等と相談することも充分できない。買い物内容によって支援者や家族等による時々への助言が必要である

(4点)支援者や家族等が買い物に関して、日常的な助言が必要である（一連の行為を75%以上自分で行える）

(3点)支援者や家族等が買い物に同行し、一部に手助けが必要である（一連の行為を50%以上75%未満自分で行える）

**【全面的支援が必要】**

(2点)買い物を行うために、多くの助言や手助けが必要である（一連の行為を25%以上50%未満自分

で行える)

(1点)買い物を行うために、常に手助けが必要である(一連の行為を25%未満しか自分で行えない)

《解説等》

実際に採点する場合は、利用開始時の買い物訓練、利用終了時の買い物訓練の状況をもとに採点してください。日常的な買い物の対象は、利用者個々の状況に応じて設定してください。ただし、その場合にごく一部の物だけに限定しないでください。( )の「自分で行える」には、自らが判断し指示してヘルパー等を活用する場合がありますが、売り場を探すこともなく「シャンプーを何か買って」といったような判断を他者に依存するような具体的でない指示の場合は「自分で行える」とはしません。( )の%の判断は、行えている項目の数や行えている程度の割合を基にして行ってください。

(5) 家事活動(調理含まず)(選択項目)

《評価の内容》

ここでは、掃除、洗濯、ごみ出しを家事の代表とし、毎日の生活の中で行われる家事活動が行えているか又は行える状態にあるかを評価する。

1) 掃除は、台所、居間、寝室、トイレ、風呂場、玄関前及び家の周囲といった基本的な掃除が行えていれば良いとする。

2) 網戸、エアコン、電気製品や換気扇等の季節単位の掃除は評価に含まない。

3) 洗濯は、衣類の洗濯と物干し、布団干しや乾燥機の使用を含む。

4) ごみ出しは、ごみを溜めることなく、地域ごとのごみ分別収集日に応じたごみ出しができていれば良いとする。

《採点基準》

【自立】

(7点)掃除、ごみ出しは月に2回以上、洗濯は週に1回以上、ひとりで行え、長期的にも心配ない

(6点)掃除、ごみ出しは月に2回以上、洗濯は週に1回以上、ひとりで行える

【部分的支援が必要】

(5点)掃除、ごみ出し、洗濯のいずれかを行うために、見守りや時々の手助けが必要である

(4点)掃除、ごみ出し、洗濯のいずれかを行うために、日常的な手助け又は一部の手助けが必要である(一連の行為を75%以上自分で行える)

(3点)掃除、ごみ出し、洗濯のいずれにも、日常的な手助け又は一部の手助けが必要である(一連の行為を50%以上75%未満自分で行える)

【全面的支援が必要】

(2点)掃除、ごみ出し、洗濯のいずれにも多くの手助けが必要である(一連の行為を25%以上50%未満自分で行える)

(1点)掃除、ごみ出し、洗濯のいずれも実施できない(一連の行為を25%未満の行為しか自分で行えない)

《解説等》

施設生活の中でしか評価できない場合は、自分の部屋のごみを出す、自分の身の回りの掃除をする、自分で洗濯する、を当てはめてください。そうした環境がない場合は、まずは施設でそれができる環境づくりを行う必要があります。

身の回りの片づけは、「(3)身の回りの管理」となります。ここでは、掃除、洗濯、ごみ出しのみを家事として評価します。選択項目であるこの項目は、自らが家事をする必要がある人が対象となります。そのため、( )の「自分で行える」には、自助具の活用は含みますが、ヘルパー等の活用は含みません。( )の%の判断は、行えている項目の数や行えている程度の割合を基にして行ってください。7点の「長期的」は概ね3年程度を指します。

(6) 調理(選択項目)

《評価の内容》

献立づくり、調理、配膳、片付け、食材の管理等の調理に要する一連の行為をしているか又は出来る状態にあるかを評価する。

1) 食材管理は、保存している食材の把握や保存方法、必要な食材の選定や調達を含むが、買い物行為自体は含まない。

2) 一連の行為の質は問わない。生活に支障の無い

程度の最低限の行為ができていれば良い。

- 3) 調理 に、電子レンジの扱いを含む。
- 4) 片付けには、食器の洗浄と収納、残飯等の後処理、テーブル拭きを含む。ゴミ出しは別項目で評価する。
- 5) 食器や調理用具の管理は含まない。
- 6) 購入した弁当の保管等は含まない。

《採点基準》

**【自立】**

(7点)一連の行為をひとりで行え、長期的にも心配ない

(6点)一連の行為をひとりで行える

※自助具等を利用しての行為を含む。

**【部分的支援が必要】**

(5点)支援者や家族による見守り、時々助言が必要である又はレトルト食品、目玉焼きを作る、ご飯を炊く、みそ汁を作る程度の簡単な調理が自分で行える

(4点)支援者や家族等による日常的な助言が必要である(一連の行為を75%以上自分で行える)

(3点)支援者や家族等による一部の手助けが必要である(一連の行為を50%以上75%未満自分で行える)

**【全面的支援が必要】**

(2点)調理を行うために、支援者や家族等による多くの手助けが必要である(一連の行為を25%以上50%未満自分で行える)

(1点)殆ど調理が行えない(一連の行為を25%未満しか自分で行えない)

《解説等》

実際には、初期の採点もあくまでアセスメント後の採点となるため、調理が必要な人の場合は施設等で調理をした上でそれをもとに採点します。また、途中から調理が必要となった場合は、マニュアル2Pの「項目選択の判断」の通り、その時点で調理訓練をした結果を元に採点し、初期の採点の欄に記入します。選択項目は、評価していない段階では空欄とします。

選択項目であるこの項目は、自らが調理をする

必要がある人が対象となります。そのため、( )の「自分で行える」には、自助具の活用は含みますが、ヘルパー等の活用は含みません。( )の%の判断は、行えている項目の数や行えている程度の割合を基にして行ってください。7点の「長期的」は概ね3年程度を指します。

**(7) 生活のセルフマネジメント**

《評価の内容》

ひとりで安全に社会生活を送っているか又は出来る状態にあるかを評価する。

1) 3日以上観察を通して評価する。

2) 単身生活、家族が不在時の生活を想定。模擬住宅や模擬ルームの活用、家庭で家族は監視のみで関わらない等、一定の環境を用意して評価する。グループホームの利用体験も含まれる。

3) 食事の回数や時間、入浴、買い物や仕事などの外出等、その人の通常的生活習慣に従った行為を、ひとりでも安全に行われている又は出来る状態にあるかを評価する。

《採点基準》

**【自立】**

(7点)仕事や買い物も含め、ひとりで通常の日常生活が行え、長期的にも心配ない

(6点)仕事や買い物も含め、ひとりで通常の日常生活が行える

※いずれも、自らが判断し適切に指示してヘルパー等を活用する場合、自助具の活用を含む。

**【部分的支援が必要】**

(5点)ひとりで通常の日常生活を行うためには、時々見守りや助言が必要である

(4点)ひとりで通常の日常生活を行うためには、毎日の見守りや助言が必要である

(3点)日中のみであれば一人で過ごすことが出来る

**【全面的支援が必要】**

(2点)昼食をはさまない半日程度一人で過ごすことが出来る。

(1点)全く一人で過ごせない

《解説等》

必要な住宅改修がまだできていないために生活

できない場合も含め、初期段階では外泊等出来ない入所者は、職員の声掛けがなくとも自分で施設生活を送れていれば4とし、1~4点で評価します。

終期段階で5点以上が期待できる利用者に対しては、家庭実習や模擬生活体験室、グループホームでの実習等で生活体験をした上で採点することが望ましいです。7点の「長期的」は概ね3年程度を指します。

○社会の一員として積極的に参加するための活動

## (8) 外出手段

### ①公共交通機関を利用した外出（二者択一項目） 《評価の内容》

公共交通機関を利用して外出しているか又は出来る状態にあるかを評価する。

1) 利用者が地域で利用するであろう身近な公共交通機関のみの利用を評価対象とする。すべての乗り物を利用できる必要はない。タクシーの利用を含む。

2) 電車、バス等の交通システム利用の場合は、時刻表、上下車場所・経路の判断、安全で迷惑をかける乗車・車中行為、バリアフリー環境整備の理解と適切な利用・駅員や乗務員等への介助依頼、料金支払いシステムの理解と支払い等利用するすべての行為が含まれる。

3) タクシーの利用の場合は、タクシーの予約、乗降（介助を受ける場合は適切な介助内容の指示）、行き先や経路の伝達、料金の支払い等利用するすべての行為が含まれる。

《採点基準》

#### 【自立】

(7点)自らの力で、公共交通機関の利用の一連の行為を全て行い外出しており、未体験の公共交通機関の利用の場合も支援や訓練の必要がない

(6点)自らの力で、公共交通機関の利用の一連の行為を全て行い外出している

#### 【部分的支援が必要】

(5点)限られた区間の公共交通機関の利用は自分でやっている。公共交通機関を自由に利用するには支援者や家族等による見守り、助言が必要である

(4点)支援者や家族等が同行し、常に見守る必要がある

(3点)支援者や家族等が同行し、行為の一部分を手伝う必要がある

#### 【全面的支援が必要】

(2点)支援者や家族等が同行し、多くの出助けをする必要がある

(1点)自らの力で公共交通機関を利用することができない

《解説等》

公共交通機関の利用の採点は、初期段階で実際的な体験を訓練で実施した後に採点します。直接的な評価がまだ難しい人の場合は、移動能力や判断能力等、間接的な場面をもって採点します。

実際の採点は、実際の訓練の中で評価することになるため、公共交通機関の利用練習をグループで行っている場合でも、「今日はAさんの評価日だから協力してね」とグループに伝え、判断場面はすべてAさんにしてもらおう等して個別の評価ができるよう工夫します。

### ②自動車運転（二者択一項目）

《評価の内容》

自動車を運転して外出しているか又は出来る状態にあるかを評価する。

1) 自動車運転を移動手段として考えている場合に評価する。

2) 利用頻度は問わない。

《採点基準》

#### 【自立】

(7点)運転免許を取得し又は公安委員会の適性検査に合格し、自らの力で安全に自動車を運転して外出しており、長期的にも問題ない

(6点)運転免許を取得し又は公安委員会の適性検査に合格し、自らの力で安全に自動車を運転して外出している

#### 【部分的支援が必要】

(5点)運転免許を取得し又は公安委員会の適性検査に合格し、限られた区間の自動車運転は安全に行っている

(4点)運転免許を取得し又は公安委員会の適性検査に合格したものの、不安があるため、あまり自動車運転をしていない

(3点)運転免許を取得し又は公安委員会の適性検査に合格したものの、不安があるため、全く自動車運転をしていない

【全面的支援が必要】

(2点)免許がない又は公安委員会の適性検査を行っておらず現在は自動車運転をしていない

(1点)自動車の運転は難しい

《解説等》

認知面の課題で施設生活自体が支援がある等、まだ訓練対象とならない場合は、そうした状況を判断し採点してください。初期の段階での評価の難しさがあるため、他とは少し基準を変えています。7点の「長期的」は概ね3年程度を指します。

(9) 人間関係

《評価の内容》

他者との人間関係を築き、相互交流を維持しているかを評価する。

- 1) 観察できる代表的な他者を選定し評価する。
- 2) 他者とは、友人、知人、恋人、利用者仲間等、ある程度継続的な関係にある人を指すが、店員や訪問セールス、役場や銀行の窓口等の一時的に関わる人は含まない。
- 3) 施設職員や相談支援専門員等の支援を業務とする者との関係は含まない「(13) 制度・サービス活用」で扱う」
- 4) 子育て、未成年の子との関係は含まない。また、社会生活という観点から、夫婦関係や、親子、親戚といった本人の意思にかかわらず起きる人間関係は除く。
- 5) 代表的な他者を複数設定して総合的に評価してもかまわない。
- 6) SNS 上のみの人間関係は含まない。

《採点基準》

【自立】

(7点)自発的に人間関係をつくり、相互に相談し合う、助け合う等の関係を保っている

(6点)日常的に交流している人と、相互に相談し合う、助け合う等の関係を保っている

【部分的支援が必要】

(5点)日常的な交流はあるが、相互関係とはならずやや一方的な関係になっている

(4点)日常的に接している人との関係は保っているが、相談できる関係には至らない

(3点)第三者がいると関係性を保つことが出来るが、相談できる関係には至らない

【全面的支援が必要】

(2点)他者との関係を保てない

(1点)他者との関係をつくれない

《解説等》

ここでは人間関係、信頼関係づくりについて評価します。恋人と言いながら相手の立場を考えない等は評価が下がり、待っているだけではなく積極的に人間関係を作っていくことで、より社会生活力を高めている場合を高く評価します。

役場の窓口に行っても必要な情報を引き出すことは、ここの対象とはしていません。支援者との関係は(12)で評価します。あくまで、人間関係を築き維持することについて評価します。

積極的に友人をつくるが、直ぐに関係を壊してしまう等、常に交友関係を保てない状態にある場合は2になります。利用者の変化を測るものですので、利用開始時と終了時が同じ相手であれば、関係の悪い相手を代表的な他者としてもかまいません。

(10) 仕事／学校（選択項目）

《評価の内容》

就労又復職、就学又は復学しているか又は見込みとなっているかを評価する。

- 1) 就労又は復職は、週20時間以上の労働の就労であれば、就労形態、労働の質は問わない。また、就労継続支援A型事業所を就労に含む。
- 2) 就学又は復学は、専修学校や各種学校、大学校等の学校教育法以外の学校も含む。また、定時制、通信制は含むが通信講座は含まない。また、学習の質は問わない。
- 3) 見込みとは、採用試験や入学試験への合格、就

職先への内定、復職・復学の内定、トライアル雇用にある等のものを指し、単に就労や入学できる能力を身に着けたというだけのものは含まない。

《採点基準》

**【自立】**

(7点)就労又は復職、就学又は復学している又は見込みとなっている

(6点)就労移行支援、職業訓練校等、一般就労のための訓練を受けている又は受ける見込みとなっている

**【部分的支援が必要】**

(5点)就労継続B型事業所、フリースクールやサポート校等の支援のある状態で、週20時間以上の労働や、通常の就学時間での学習を行っている又は行う見込みとなっている

(4点)事業所での作業訓練や学習指導等、一定の支援のある環境があれば、週15時間以上の作業又は通常の就学時間の75%以上の学習が行える

(3点)事業所での作業訓練や学習指導等、一定の支援のある環境があれば、週10時間以上の作業又は通常の就学時間の50%以上75%未満の時間の学習が行える

**【全面的支援が必要】**

(2点)事業所での作業訓練や学習指導等、一定の支援のある環境があれば、週5時間以上の作業又は通常の就学時間の25%以上50%未満の時間の学習が行える

(1点)事業所での作業訓練や学習指導等、一定の支援のある環境があっても、週5時間未満の作業又は通常の就学時間の25%未満の時間の学習しか行えない

《解説等》

この項目は、利用者が就労や復職、就学や復学を進路として希望する場合のみが対象となります。そのため、実際には就労や就学等を希望しない人は採点しません。希望している場合には、初期のアセスメント時に作業評価をしておく必要がありますが、初期にも少し施設内で作業的な活動を行っていると思われますので、それをもって評価する

ことも可能と思われます。

仕事の内容がそれぞれに違う中で、質の評価等、評価しづらい基準を含めると、採点が難しくなることからシンプルにしています。そのため、何もなくてもいいので会社役員としてでもいてくれればいい、と言われ就職した場合も「自立」として採点します。終期に4点以下となる場合の評価は、施設での訓練場面による採点となります。終期段階では、進路の決定状況や退所前の訓練状況の評価で評価します。

**(11) 地域での余暇活動**

《評価の内容》

趣味や楽しみのための外出や地域での活動をしているかを評価する。

1) 旅行、サイクリング、登山、映画鑑賞、友人との会食、習い事、スポーツ、興行への参加、ボランティア活動、自治会活動、その他地元での活動等、日常生活上必要な行為以外の外出の楽しみや活動全般を指す。

2) 仕事、食材や日用品等必要物の買い物、役場や銀行等の手続き等は含まない。外食は、楽しみとしてそのものが目的となる場合に含まれる。

3) テレビやビデオ鑑賞、テレビゲームやオンラインゲーム、読書、音楽鑑賞等、自室内での楽しみは含まない。

4) 視覚障害者や身体障害が重度等で外出が難しい状態にある場合のみ、オンライン上での団体活動、研修や会合への参加、趣味のサークルや教室の参加等、他者との交流のある活動を含む。

《採点基準》

**【自立】**

(7点)自らが中心となって余暇活動等を計画している

(6点)自発的に余暇活動等を探し、自らの力で定期的に取り組んでいる。自発的に、外での様々な体験の機会を利用し、自分に合った余暇活動等を探している

※いずれも、自らが判断し適切に指示してヘルパー等を活用する場合、自助具の活用を含む。

### 【部分的支援が必要】

(5点) 周囲の人に促されて余暇活動等に参加し、取り組んでいる

(4点) 事業所等の余暇活動等支援プログラムや他の余暇活動等支援の場に積極的に取り組み、楽しみを見つけようとしている

(3点) 事業所等の余暇活動等支援プログラムや他の余暇活動等支援の場に参加し楽しんでいる

### 【全面的支援が必要】

(2点) 促されながら、事業所等の余暇活動支援等プログラムや他の余暇活動等支援の場に参加している

(1点) 事業所等の余暇活動支援等プログラムや他の余暇活動等支援の場に参加していない

#### 《解説等》

利用終了前に、利用後の余暇活動を見つけられれば評価が上がります。そのための利用中の支援が重要です。施設で設定している余暇活動自体が支援の一つですので、支援者の助けなく熱心に取り組んでいても4点となります。

社会生活の自立度の評価指標という観点から、地域での人との交流を伴う活動を評価するようにしています。そのため、家庭内の趣味等を入れてしまうと、「昼寝」「テレビ鑑賞」等が含まれ、社会生活の自立度を評価する視点から離れてしまうため、敢えて外しています。同様に、この評価指標は満足度ではなく状況の変化を評価するようにしています。本人の満足度が高くとも「家で1日中ゴロゴロ寝ている」ことや「1日中酒を飲んでテレビを観る」ことは高評価とはしません。

ここでは、社会的に意義の大きい活動か否かは関係しません。7点の場合は、自らがボーリングや食事会等の場を企画し、周囲に呼び掛けて実施している場合も含まれます。単発に終わらず繰り返し行われていれば、活動の頻度は問いません。

### (12) 日中活動

#### 《評価の内容》

孤立することなく社会とのつながりのある日中活動状態にあるか又は出来る状態にあるかを評価

する。

1) 家庭に引きこもることなく、他者との交流のある何らかの日中活動が日常的に行えているかを評価する。

2) 交流のある日中活動には、趣味活動サークルやスポーツクラブへの参加、友人との会食や外出、グループで行う趣味活動、PTA活動や自治会活動、ボランティア活動や地域の寄り合い等様々なものを含む。

3) 交流のある日中活動には、通勤や通学、就労継続A・B、生活介護、地域活動支援センター等への通所、通所介護、通所リハビリテーション等の介護保険通所サービスの利用を含み、利用中の自立訓練は含まない。

4) 家族と行う外での活動は含むが、家庭内で行う活動は含まない。

### 【自立】

(7点) 自らの力で場を探し、1週間に1度以上の交流のある日中活動を行っている又は行う見込みとなっている

(6点) 周囲の人からの呼びかけ等をきっかけに、1週間に1度以上の交流のある日中活動を行っている又は行う見込みとなっている

### 【部分的支援が必要】

(5点) 周囲の人からの時々の促しにより、1週間に1度以上の交流のある日中活動を行う

(4点) 支援者からの時々の情報提供や促しにより1週間に1度以上の交流のある日中活動を行う

(3点) 支援者からの日々の促しにより、1月間に1度以上の交流のある日中活動を行う

### 【全面的支援が必要】

(2点) 1月間に1度以上の他者との交流のある日中活動がない

(1点) 6月間に1度以上の他者との交流のある日中活動がない

#### 《解説等》

6点の周囲からの呼びかけ等をきっかけには、きっかけとなった後は、自らが自主的に活動している場合となり、5点の周囲の人からの時々の促しに

よりは、周囲の促しを続けることでできている活動となります。ここでは、交流のある日中活動全般について評価するため、「(10) 仕事／学校」、交流のある「(11) 余暇活動」についても、再度カウントすることになります。

○共通項目

### (13) 制度・サービス活用

《評価の内容》

必要な制度やサービスを理解し、自らの選択、判断により活用しているかを評価する。

1) 障害者手帳制度、公的年金、公的医療保険、障害者総合支援法や介護保険制度、障害者雇用促進法等、直接関係のあると思われるものから代表的なものを1～2つ程度選択し、概要の理解及び利用方法（情報収集の方法、相談窓口）を把握し行動しているかを評価する。

2) 活用には、支援者との関係を維持することも含まれる。

《採点基準》

【自立】

(7点)自らが、必要な制度やサービスを調べ相談窓口連絡し、自らの選択、判断により活用している

(6点)提示される制度やサービスから、自らが窓口を確認し、必要なものを調べ、自らの選択、判断により活用している

【部分的支援が必要】

(5点)時々の支援者による助言を受けながら、自らの選択、判断により必要な制度やサービスを活用している

(4点)常に支援者と相談し、助言を受けながら必要な制度やサービス選択し活用している

(3点)支援者の提案や家族等の選択により利用を開始することとなった制度やサービスを、自ら活用している

【全面的支援が必要】

(2点)支援者の提案や家族等の選択により利用を開始することとなった制度やサービスを、援助を受けながら活用している

(1点)必要な制度やサービスの利用の全てについて、

支援者や家族等に任せている

《解説等》

途中で活用する制度が変わった場合や、新たに活用する制度で評価する場合は、その時点を利用開始時として評価しても構いません。自立訓練そのものも利用も評価の対象にできます。支援者に対するマナーや関係づくりはここで評価します。

### 5. まとめ

自立訓練（機能訓練・生活訓練）の評価手法・指標を提案する、という研究目標に対しては、それを評価できる既存の評価指標はなく、先行研究も乏しい中であつたため、オリジナル評価指標「社会生活の自立度評価指標（SIM）」の作成に取り組み、試行調査による検証と改良をもって提案することができた。しかし、現段階では、試行調査のサンプル数が充分ではなかったことや、改良後に試行できていないことから、今後は、全国の自立訓練事業所に対する悉皆調査による効果検証を行う等、更に研究を進め、評価指標としての精度を上げていく必要がある。

### 6. 終わりに

SIM は、自立訓練事業所の利用者の利用時と終了時の社会生活の自立度の変化を捉えることにより、事業所の支援状況を評価しようとするアウトカム評価指標であり、SIM の活用により、自立訓練事業所の支援力の向上に繋げようとするものである。しかし、当然のことながら事業所の支援力の向上を図るためには、スタッフの人員体制や設備等のストラクチャーの充実、プログラムや支援の内容・実施方法、フィードバックやモニタリング等のプロセスの充実が同時に求められる。自立訓練を実施する事業所が、それらの充実を図るためには、事業所の努力と併せて、それを支える制度の充実が求められる。また、SIM を実用する中で、自立訓練事業所で行われている支援プログラム等の分析、研究が行なわれ、支援の充実に反映されるようになっていく必要がある。SIM の普及に当た

っては、マニュアルの更なる充実と、普及や活用のための研修の実施が望まれる。

参考文献

- ※1 障害のある人のための社会生活力プログラム・マニュアル（中央法規 奥野英子編著）
- ※2 厚生労働省平成 30 年度障害者総合福祉推進事業「自立訓練（機能訓練・生活訓練）の実態把握に関する調査研究」報告書 184p
- ※3 「障害者自立支援法による改革～「地域で暮らす」を当たり前に～ 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部」より
- ※4 201 年度大阪ガスグループ福祉財団「調査・研究助成」難聴者を対象とした支援に関する調査報告書(2019 年 6 月 京都府立大学公共政策学部 京都府難聴者協会)

資料

表1 Lawton(IADL)尺度の項目と分析結果

※1か0かの採点であるため、変化をみるためには、もう少し段階分けて採点することが必要。  
 ※C、D、Eが女性のみとする考え方について…単身生活予定者等男性が訓練対象となる場合があるが、C、D、Eも男女共通とすると、訓練を行わない男性も対象になり利得合計が下がるため、女性の利用者の多い事業所が有利になってしまう。訓練を実施した人だけを基に採点すると、事業所評価としては複雑になりそうである。

項目	採点	評価対象	利用可能性	理由等
<b>A 電話を使用する能力</b>				
1. 自分から電話をかける(電話帳調べたり、ダイヤル番号を回すなど)	1	通信手段の活用と思われるが、電話を受けるだけで満点となるため、何の評価か不明	×	電話をかける行為に関する評価である。また、電話はダイヤル式の時代のものである。今は、メール等でのやり取りも多いため、このままでは活用できない。
2. 2,3のよく知っている番号をかける	1			
3. 電話に出るが自分からかけない	1			
4. 全く電話を使用しない	0			
<b>B 買い物</b>				
1. 全ての買い物は自分で行う	1	「少額」「付き添い」が同列の0点とあることから、買い物に関連する移動や荷物の持ち運びを組んだすべての評価であるとする捉えられる。	×	買い物自立に向けたものとする、関連する全てを含んだ項目を再設定する必要がある
2. 小額の買い物は自分で行える	0			
3. 買い物に行くときはいつも付き添いが必要	0			
4. 全く買い物はできない	0			
<b>C 食事の準備</b>				
1. 適切な食事を自分で計画し準備し給仕する	1			
2. 材料が供与されれば適切な食事を準備する	0	「材料が供与」されて適切な調理ができてもの点となることから、献立、買い物、配膳を含む調理の評価と思われる。	△	項目は活用できるが、買い物を別項目とする場合は、買い物を除く必要がある。また、単身生活等、男性も訓練を行うことがあるため、評価対象とする必要がある。
3. 準備された食事を温めて給仕する、あるいは食事を準備するが適切な食事内容を維持しない	0			
4. 食事の準備と給仕をしてもらう必要がある	0			
<b>D 家事</b>				
1. 家事を一人でこなす、あるいは時に手助けを要する(例…重労働など)	1			
2. 血圧いやベッドの支度などの日常的仕事はできる	1	「全ての家事に手助けを必要」も1点となることから、家事に関わることを評価するものと思われる。	×	家事に関わるだけで評価するのはない方がよい。食事の準備、洗濯が別項目にあるため、全ての家事の評価となることでの評価をする。二重に評価することとなるため、この大項目を採用しないか、食事の準備、洗濯を除いた家事の評価として採用するか判断しなければならない。項目自体は再検討が必要である。
3. 簡単な日常的仕事はできるが、妥当な清潔さの基準を保てない	1			
4. 全ての家事に手助けを必要とする	1			
5. 全ての家事にかかわらない	0			
<b>E 洗濯</b>				
1. 自分の洗濯は完全に行う	1			
2. ソックス、靴下のゆすぎなど簡単な洗濯をする	0	物干しを含めた洗濯ができることで評価	×	洗濯機、乾燥機の操作ができればよいのであれば、洗濯を切り出さずに家事に含んでも良いかも知れない。
3. 全て他人にしてみらわなければならない	0			
<b>F 移送の形式</b>				
1. 自分で公的機関を利用して旅行したり自家用車を運転する	1			
2. タクシーを利用して旅行するが、その他の公的輸送機関は利用しない	1	旅行の意味が不明。付き添いに依存しての公的輸送機関の利用が1点であるため、殆どの障害者が1点となり、何を評価するものかも不明。	×	交通機関を使っての移動についての項目を別に設定する方がよい。
3. 付き添いがいたり皆と一緒に公的輸送機関で旅行する	1			
4. 付き添いか皆と一緒に、タクシーか自家用車に限り旅行する	0			
5. まったく旅行しない	0			
<b>G 自分の服薬管理</b>				
1. 正しいときに正しい量の薬を飲むことに責任が持てる	1			
2. あらかじめ薬が分けて準備されていれば飲むことができる	0	服薬が完全に自己管理できているかわ評価	△	服薬のみを項目立てするのが良いか検討が必要。項目は参考にできる。
3. 自分の薬を管理できない	0			
<b>H 財産取り扱い能力</b>				
1. 経済的問題を自分で管理して(予算、小切手書き、掛金支払い、銀行へ行く)一連の収入を得て、維持する	1	日常生活に所持しているお金を取り替えることで1点となり、財産の取り扱い能力ではないと思われる。	△	項目は一部修正して活用できる。
2. 日々の小額は管理するが、預金や大金などは手助けを必要とする	1			
3. 金銭の取り扱いができない	0			

方向
大項目を「通信」として、メールやスマホ機能の活用を含んだ小項目を再設定する
大項目の「買い物」を、スーパーなど買い物をする場所に限定した移動を含む行動とし、小項目を再設定する
大項目の「食事の準備」を、食材の買い物を除くものとし、小項目を再設定する
大項目の「家事」を、「食事の準備」を除き「洗濯」を含むものとし、小項目を再設定する
「家事」に吸収する
大項目の「移送の形式」を、「交通機関を利用する行動」とし、自動車運転を含み、行動範囲について段階分けた小項目を再設定する。「バスや電車や自家用車運転にて、〇〇まで移動することができる」等
大項目の「服薬」を「自己健康管理」とし、服薬を含み小項目を再設定する
大項目の「財産取り扱い能力」をそのままとし、項目を一部修正する

表2 RASの項目と分析結果

原文	原文カテゴリ	カテゴリ	分類	第3者による計測可能性	計測内容	方向
1 生きがいがある		生きがい	主観			<p>・ストレスチェック表のみを評価者の一つとして採用する意義は小さいため、実施しない。</p> <p>・RASは、生活訓練での変化の高いが、計測が難しいため、同様に変化の高いWHO/QOLや、準じた高いWHO/DASで項目設定でき、変化が捉えられるか研究し、難しいようであればRASをそのまま生活訓練の評価指標とするか検討する。</p>
2 不安があっても、自分のしたい生き方ができる		自己実現力	主観			
3 自分の人生で起きていることは、自分で何とかできる		課題解決力	主観			
4 自分のことが好きだ		自己満足度	主観			
5 人々が自分のことをよく知ったら、好ましく思ってくれるだろう		人間関係への自信	主観			
6 自分がどんな人間になりたいかという考えがある		将来展望	主観			
7 自分の将来に希望を持っている		自己肯定感	主観			
8 いつも好奇心がある		好奇心	主観			
9 ストレスに対処することができ		ストレス対処	主観	○	ストレスチェック表による計測	
10 成功したい強い願望がある		成功願望	主観			
11 元気でいたり、元気がなくなったりするための、自分なりの計画がある		生活設計	主観			
12 到達したい人生の目標がある		人生目標	主観			
13 現在の自分の目標を達成できると信じている		目標達成への自信	主観			
14 手助けを求めた方がよいのかのようなか、知っている		援助依頼(必要性の判断)	主観			
15 手助けを求めた方がよいと思う		援助依頼(積極性)	主観			
16 必要な時は、手助けを求め		援助依頼(実行力)	主観			
17 たえず自分で自分のことを気にかけていなくても、他の人は私を気にかけてくれる		共生感	主観			
18 何か良いことが、いつかは起きるだろう		楽観性	主観			
19 頼りにできる人がいる		支援者の存在	主観			
20 たえず自分のことを信じていない時でも、他の人が信じてくれる		他者との信頼関係	主観			
21 さまざまな友達を持つことは、大切なことだ		友人意識	主観			
22 精神の病気を発症することは、いまでは私の暮らしで最も重要なことではない		障害の重要度の低下	主観			
23 症状が私の生活の妨げとなることは、だんだん少なくなっている		ハンデキャップ意識の低下	主観			
24 私の症状が問題になる時間の長さは、毎回短くなっているようだ		障害の負担感の低下	主観			

表3 WHO/QOLの項目と分析結果

原文	原文カテゴリ	科別カテゴリ	分類	第3者による計測可能性	計測方法	イメージ	課題	結果
1 自分の生活の質をどのように評価しますか	全体	生活の質の評価	主観	○	観察評価	FIMの「社会的交流」「問題解決」に準じて評価項目を作成	<p>計測方法について</p> <p>・満足度については本人への質問による評価が有効であれば問題ない。</p> <p>・余暇活動等利用終了後の生活に際するごと利用終了時に評価することが難しい。終了時に立てた終了後の生活計画の内容の観点によって評価できるのであれば問題ない。</p> <p>・余暇の評価について自宅のテレビで映画を観るのを観照している人もいる。テレビを観るの余暇とするか？</p>	<p>・他の評価指標と共にFIMに準じた評価項目を設定する。</p> <p>・利用終了後の状況で、本人への質問が必要なのは除外する。</p>
2 自分の健康状態に満足していますか	全体	健康状態の満足度	主観	○	観察評価	FIMの「社会的交流」「問題解決」に準じて評価項目を作成		
3 身体のみならず不快感のせい、しなければならぬことが多くないか悩まされていますか	身体的領域	障害による活動制限の緩和	主観	○	観察評価	FIMの「社会的交流」「問題解決」に準じて評価項目を作成		
4 毎日の生活の中で医療(医療)がどのくらい必要ですか	身体的領域	医療の必要度の軽減	主観	○	観察評価	FIMの「社会的交流」「問題解決」に準じて評価項目を作成		
5 毎日の生活をどのくらい楽しく感じていますか	心理的領域	生活の充実感	主観	○	観察評価	FIMの「社会的交流」「問題解決」に準じて評価項目を作成		
6 毎日の生活をどのくらい興味あるものと感じていますか	心理的領域	生活の意義の感受	主観	○	観察評価	FIMの「社会的交流」「問題解決」に準じて評価項目を作成		
7 物事にどのくらい集中することができますか	心理的領域	集中力	主観	○	観察評価	FIMの「社会的交流」「問題解決」に準じて評価項目を作成		
8 毎日の生活はどのくらい安全ですか	環境	生活の安全度	主観	○	観察評価	FIMの「社会的交流」「問題解決」に準じて評価項目を作成		
9 あなたの生活環境はどのくらい理学的ですか	環境	理学的な生活環境	主観	○	観察評価	FIMの「社会的交流」「問題解決」に準じて評価項目を作成		
10 毎日の生活を送るための活力がありますか	身体的領域	生活する活力	主観	○	観察評価	FIMの「社会的交流」「問題解決」に準じて評価項目を作成		
11 自分の容姿(外見)を受け入れることができますか	心理的領域	外見(容姿)の受容	主観	○	観察評価	FIMの「社会的交流」「問題解決」に準じて評価項目を作成		
12 必要なものが変わるだけのお金を持っていますか	環境	経済的余裕	主観	○	観察評価	FIMの「社会的交流」「問題解決」に準じて評価項目を作成		
13 毎日の生活に必要な情報を知ることができると感じていますか	環境	情報を得る機会	主観	○	観察評価	FIMの「社会的交流」「問題解決」に準じて評価項目を作成		
14 余暇を楽しむ機会がありますか	環境	余暇機会	主観	△	本人への質問	1ヶ月の余暇活動参加回数		
15 家の周囲に出まわることがよくありますか	身体的領域	近隣外出の機会	主観	△	本人への質問	1ヶ月の近隣への外出回数		
16 睡眠は満足しているのですか	身体的領域	睡眠の満足度	主観	○	観察評価	本人への質問		
17 毎日の活動をやり遂げる能力に満足していますか	身体的領域	活動力の満足度	主観	○	観察評価	本人への質問		
18 自分の仕事を完了する能力に満足していますか	身体的領域	労働力の満足度	主観	○	観察評価	本人への質問		
19 自分自身に満足していますか	心理的領域	自己満足度	主観	○	観察評価	本人への質問		
20 人間関係に満足していますか	社会的領域	人間関係満足度	主観	○	観察評価	本人への質問		
21 性生活に満足していますか	社会的領域	性生活への満足度	主観	○	観察評価	本人への質問		
22 友人たちの支えに満足していますか	社会的領域	友人への満足度	主観	○	観察評価	本人への質問		
23 家と家のまわりの環境に満足していますか	環境	自宅環境満足度	主観	○	観察評価	本人への質問		
24 医療施設や福祉サービスの利用が十分に満足していますか	環境	医療・福祉満足度	主観	○	観察評価	本人への質問		
25 周辺交通の便に満足していますか	環境	移動環境満足度	主観	○	観察評価	本人への質問		
26 気分がすくなくたり、絶望、不安、落ち込みといった気分がどのくらい頻りに襲ってきますか	心理的領域	心理的負担の軽減	主観	○	観察評価	本人への質問		

表4 WHO-DASの項目と分析結果

原文	原文カテゴリ	カテゴリ	分類	第3者による計測可能性	計測方法	イメージ	課題	結果
1.1 何かをするとき、10分間集中する	認知	集中力	主観/客観	○	観察評価			<p>・ADLに関することはFIMで評価</p> <p>・それ以外の項目で○のものについては、一部は評価対象を見直し施設内で評価できるように、「家事労働」「仕事」等としてまとめる等)他の評価指標と共にカテゴリを設定し、FIMに準じた評価項目を設定する。</p> <p>・利用終了後の状況で、本人への質問が必要なのは除外する。</p>
1.2 大切なことをすく覚えておく	認知	記憶力	主観/客観	○	観察評価	FIMの「理解」「表出」に準じて評価項目を作成		
1.3 日常生活での問題点を分析して解決法を見つける	認知	課題解決力	主観/客観	○	観察評価	FIMに「問題解決」がある。		
1.4 新しい課題、例えば初めての場所へ行く方法を学ぶ	認知	学習能力	主観/客観	○	観察評価	FIMに「理解」「表出」に準じて評価項目を作成		
1.5 自分が言っていることを、普通に理解する	認知	理解力	主観/客観	○	観察評価	FIMに「理解」がある。		
1.6 自ら会話を始めたり続けたりする	認知	会話能力	主観/客観	○	観察評価	FIMに「表出」がある。		
2.1 長時間(30分以上)立っている	可動性	立位能力	主観/客観	○	観察評価		身体機能評価である。	
2.2 歩いているところから立ち上がる	可動性	立ち上がり	主観/客観	○	観察評価			
2.3 家中で動き回る	可動性	屋内移動能力	主観/客観	○	観察評価	FIMに「移動」がある。		
2.4 家の外に出で歩く	可動性	屋外近距離移動	主観/客観	○	観察評価	FIMの「移動」に準じて評価項目を作成		
2.5 1km以上の長距離を歩く	可動性	屋外遠距離移動	主観/客観	○	観察評価	FIMの「移動」に準じて評価項目を作成		
3.1 全身を洗う	セルフケア	活動力(洗体)	主観/客観	○	観察評価	FIMに「清拭(入浴)」がある。		
3.2 自分で髪を洗う	セルフケア	活動力(更衣)	主観/客観	○	観察評価	FIMに「更衣(上半身)(下半身)」がある。		
3.3 食事をすすめる	セルフケア	活動力(食事)	主観/客観	○	観察評価	FIMに「食事」がある。		
3.4 数日間一人で過ごす	セルフケア	身辺自立度	主観/客観	○	観察評価	FIMの「社会的交流」「問題解決」に準じて評価項目を作成		
4.1 見知らぬ人に応対する	他者交流	コミュニケーション力	主観/客観	○	観察評価	FIMに「社会的交流」がある。		
4.2 友人関係を築く	他者交流	交友関係維持	主観/客観	○	観察評価	FIMに「社会的交流」がある。	これらを小項目に活用できる	
4.3 新しい人と交流をする	他者交流	身近な人との交流	主観/客観	○	観察評価	FIMに「社会的交流」がある。		
4.4 新しい友人を作る	他者交流	新しい友人を作る	主観/客観	○	観察評価	FIMに「社会的交流」がある。		
4.5 性行為をする	他者交流	性行為	主観/客観	○	観察評価	FIMに「社会的交流」がある。		
5.1 家庭で要求される作業を行う	日常生活	家庭での役割	主観/客観	○	観察評価	FIMに準じて評価項目を作成	<p>項目の整理が必要</p>	
5.2 最も大切な家事をつまづくる	日常生活	家事活動(習熟度)	主観/客観	○	観察評価	FIMに準じて評価項目を作成		
5.3 なるべく全ての家事労働を片付ける	日常生活	家事活動(自立度)	主観/客観	○	観察評価	FIMに準じて評価項目を作成		
5.4 必要に応じてできるだけ早く家事労働を終わらせる	日常生活	家事活動(効率性)	主観/客観	○	観察評価	FIMに準じて評価項目を作成		
5.01 健康状態により、過去30日間に何日くらい、家事労働を減らしたり、または休んだりしたか(日数)	日常生活	活動制限(家事)の改善	主観/客観	△	観察評価	「家事労働」を利用中の活動で置き換える可		
5.5 毎日の仕事をすく/学校へ行く	日常生活	仕事/学校(参加)	主観/客観	△	本人への質問			
5.6 最も大切な仕事/学校の課題をすくまくする	日常生活	仕事/学校(習熟)	主観/客観	△	本人への質問			
5.7 なるべく全ての仕事を済ます	日常生活	仕事(自立度)	主観/客観	○	観察評価	職業前訓練メニュー等で評価		
5.8 必要に応じてできるだけ早く仕事を済ます	日常生活	仕事(効率性)	主観/客観	○	観察評価	職業前訓練メニュー等で評価		
5.9 健康状態のために、仕事の量や質を下げて働くことができなくなりましたか(日数)	日常生活	仕事の量・質の向上	主観/客観	△	観察評価	「仕事」を利用中の活動で置き換える可		
5.10 健康状態の結果として、収入が少なくなりましたか(日数)	日常生活	収入の改善	主観/客観	△	観察評価	「仕事」を利用中の活動で置き換える可		
5.02 健康状態により、過去30日間に何日くらい、半日以上仕事を休みましたか(日数)	日常生活	仕事の従事日数の向上	主観/客観	△	観察評価	「仕事」を利用中の活動で置き換える可		
6.1 誰もができるやり方で地域社会の活動に加わるのに、どれほど問題がありましたか	社会参加	地域活動参加	主観/客観	△	観察評価	終了時の生活計画で評価		
6.2 身近のりやが好むため、どれほど問題がありましたか	社会参加	環境因子(個人的・社会的)	主観/客観	△	観察評価	終了時の生活計画で評価		
6.3 他人の態度や行為のため、自分らしさを保つて生きることが、どれほど問題がありましたか	社会参加	環境因子(人的・社会的)	主観/客観	△	観察評価	終了時の生活計画で評価		
6.4 健康状態その改善のために、どれくらい時間をかける必要がありましたか	社会参加	健康改善	主観	○	観察評価	FIMに準じて評価項目を作成		
6.5 健康状態のために、どれくらい感情的に影響を受けましたか	社会参加	心理的影響の改善	主観	○	観察評価	FIMに準じて評価項目を作成		
6.6 あなたの健康状態は、あなたや家族に、どれくらい経済的損失をもたらしましたか	社会参加	経済状態の改善	主観/客観	○	観察評価	FIMに準じて評価項目を作成		
6.7 あなたの健康状態により、家族はどれくらい大きな問題を抱えましたか	社会参加	家族の負担軽減	主観	○	観察評価	終了時の自立度で評価		
6.8 リラックスしたり、楽しんでするために、自分で何かを行なうのに、どれくらい問題がありましたか	社会参加	余暇生活	主観	△	観察評価	終了時の生活計画で評価		
H1 全体として、過去30日間に何日くらい、こうした難しさがありましたか(日数)		全体的な困難の軽減	主観	△	観察評価	終了時の生活計画で評価		
H2 健康状態のために、過去30日間に何日くらい、通常の活動や仕事が全くできなかった日を除いて、健康状態により過去30日間に何日くらい、通常の活動や仕事を、途中で止めたまたは減らしたりしましたか(日数)		活動・労働不能状態の改善	主観/客観	△	観察評価	「家事労働」を利用中の活動で置き換える可		
H3 健康状態のために、過去30日間に何日くらい、こうした難しさが減らしたりしましたか(日数)		活動・労働不調状態の改善	主観/客観	△	観察評価	「家事労働」を利用中の活動で置き換える可		

表5 LSAの項目と分析結果

レベ ル空 間1	a.	この4週間、あなたは自宅で寝ている場所以外の部屋に行きましたか。
	b.	この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。
	c.	上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使いましたか。
	d.	上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。
レベ ル空 間2	a.	この4週間、玄関外、ベランダ、中庭、(マンションの)廊下、車庫、庭または敷地内の通路などの屋外に出ましたか。
	b.	この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。
	c.	上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使いましたか。
	d.	上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。
レベ ル空 間3	a.	この4週間、自宅の庭又はマンションの建物以外の近隣の場所に出ましたか。
	b.	この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。
	c.	上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使いましたか。
	d.	上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。
レベ ル空 間4	a.	この4週間、近隣よりも離れた場所(ただし町内)に出しましたか。
	b.	この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。
	c.	上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使いましたか。
	d.	上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。
レベ ル空 間5	a.	この4週間、町外に出ましたか。
	b.	この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。
	c.	上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使いましたか。
	d.	上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。

第3者による計測可能性	計測方法	課題	結果
△	本人への質問	・入所者については、事業所の立地場所やアクセス状態により、外出しにくい場合がある。 ・行動範囲の評価と限定的な指標であるため、このまま単独で活用するにはボリュームがありすぎる	WHO/QOL7WHO/DASと同様にFIMに準じて評価項目を設定し、項目の一つにして評価する。

表6 実用的歩行能力分類の項目と分析結果

実用的歩行能力分類	要件
<b>「公共交通機関自立」</b>	
class 6 特に制限なく公共交通機関の利用が可能	電車やバス等の公共交通機関の利用に支障のないもの
<b>「公共交通機関限定自立」</b>	
class 5 一定の条件下で、公共交通機関の利用が可能	①屋外歩行は自立 ②公共交通機関の利用は一定の経路や時間帯に限られるもの ③商店街など人通りの多いところでは、監視や介助を要するもの *①に加えて②または③に該当するもの⇒class 5
<b>「屋外・近距離自立」</b>	
class 4 階段があっても外出可能で、慣れた場所なら屋外歩行も可能	①階段昇降は手すりがあれば自立 ②自宅周辺など慣れた場所での歩行は自立 ③安全性、耐久性に問題があり、長距離の歩行は困難なもの ④商店街など人通りの多いところでは、歩行が困難なもの *①と②に加えて③または④に該当するもの⇒class 4
<b>「屋内・平地自立」</b>	
class 3 平地歩行は可能だが、階段や不整地では監視・介助が必要	①屋内など平地歩行は自立しているが、階段や不整地の歩行には監視または介助を要するもの ②階段では監視または介助を要するが、エレベーターなどを利用して病院や施設内の歩行は自立しているもの *①または②に該当するもの⇒class 3
<b>「平地・監視歩行」</b>	
class 2 屋内・平地なら監視または指示の下で歩行可能	①介助者は身体に触れず、監視または指示のみで歩行可能なもの ②歩行可能だが、安全性の問題などから監視を要するもの ③介助者が身体に軽く触れる程度の介助で歩行しているもの *①～③のいずれかに該当するもの⇒class 2
<b>「介助歩行」</b>	
class 1 常に身体介助が必要	①患肢の振り出しに介助を要するもの ②介助者が体幹や上肢をしっかりと支えて歩行しているもの *①～②のいずれかに該当するもの
<b>「歩行不能」</b>	
class 0 歩行または車椅子乗車不能	①まったく歩行できないもの。 ②療法士などが支えて訓練として歩行できる程度のもの *①または②に該当するもの⇒class 0

第3者による計測可能性	計測方法	課題	結果
○	観察評価	・歩行能力の評価と限定的な指標であるため、このまま単独で活用するにはボリュームがありすぎる	WHO/QOL7WHO/DASと同様にFIMに準じて評価項目を設定し、項目の一つにして評価する。

表7 試行調査結果件数

障害種別	利用形態	帰結	性別	事例数	
機 能 訓 練	片麻痺(高次脳、失語なし)	入所or通所	地域復帰or就労系・復学	男性or女性	12
			地域復帰or就労系・復学	男性or女性	18
	片麻痺(高次脳あり)	入所or通所	地域復帰or就労系・復学	男性or女性	16
			地域復帰or就労系・復学	男性or女性	10
	片麻痺+失語	入所or通所	地域復帰or就労系・復学	男性or女性	7
			地域復帰or就労系・復学	男性or女性	2
	脊髄損傷(車いす利用者)	入所or通所	地域復帰or就労系・復学	男性or女性	8
			地域復帰or就労系・復学	男性or女性	11
	視覚障害	入所or通所	地域復帰or就労系・復学	男性or女性	4
			地域復帰or就労系・復学	男性or女性	4
聴覚障害	通所利用	地域復帰or就労系・復学	男性or女性	8	
		地域復帰or就労系・復学	男性or女性	11	
知的障害	入所or通所	地域復帰or就労系・復学	男性or女性	4	
		地域復帰or就労系・復学	男性or女性	4	
精神障害	通所利用	地域復帰or就労系・復学	男性or女性	8	
		地域復帰or就労系・復学	男性or女性	18	
生活訓練	訪問のみ	地域復帰or就労系・復学	男性or女性	4	
		宿泊型	男性or女性	4	
発達障害	入所or通所	地域復帰or就労系・復学	男性or女性	8	
		地域復帰or就労系・復学	男性or女性	18	
高次脳障害(身体なし)	入所or通所	地域復帰or就労系・復学	男性or女性	18	
合計				118事例	
データ数(1事例につき2名の検査者で)				236件	

表8 事業形態別利得平均値

1.事業形態別の総利得の平均値の差			
サービスの種類	SIM①	SIM②	FIM
	利得	利得	利得
機能訓練 Ave.	16.3	15.6	8.1
生活訓練 Ave.	15.0	12.7	5.5
2.事業形態別の総利得の平均値の利得率の差			
サービスの種類	SIM①	SIM②	FIM
	利得率	利得率	利得率
機能訓練 Ave.	22.3	21.4	7.5
生活訓練 Ave.	20.5	17.4	5.1

表 9 事業形態別利得差の比較

1.事業形態別の平均値の差

サービスの種類	n	SIM①		SIM②		SIM①	SIM②	FIM		
		befor	after	befor	after	利得	利得	befor	after	利得
機能訓練 Ave.	76	48.3	64.5	49.1	64.7	16.3	15.6	104.0	112.1	8.1
生活訓練 Ave.	36	45.9	60.9	49.0	61.7	15.0	12.7	107.9	113.4	5.5
自由度(φ)		110	110	110	110	110	110	110	110	110
t値		0.75	1.13	0.02	0.92	0.69	1.62	1.18	0.49	1.89
p値(両側)		0.457	0.260	0.987	0.361	0.490	0.108	0.240	0.623	0.062
結果		-	-	-	-	-	-	-	-	-

SIM①+SIM② 利得

サービスの種類	健康管理	金銭管理	身の回り	買い物	家事活動	調理	セルフマネ	移動	人間関係	仕事/学校	余暇活動	日中活動	制度活用
機能訓練 n	152	152	152	152	137	85	152	152	152	125	152	152	151
生活訓練 n	72	72	72	72	68	54	72	72	72	63	72	72	71
機能訓練 Ave.	1.1	0.8	0.8	1.1	1.1	1.5	1.2	2.0	1.1	1.3	1.0	1.4	1.4
生活訓練 Ave.	0.8	0.9	0.8	0.7	0.8	0.6	1.1	1.1	1.3	1.3	1.2	1.4	1.5
自由度(φ)	222	222	222	222	203	137	222	222	222	186	222	222	220
t値	2.00	0.85	0.18	2.31	1.94	4.58	0.95	4.35	0.96	0.68	1.15	0.09	0.41
p値(両側)	0.046	0.395	0.855	0.022	0.054	0.000	0.344	0.000	0.337	0.500	0.251	0.930	0.685
結果	*	-	-	-	-	**	-	**	-	-	-	-	-

表 10 障害別利得差の比較

2.障害別の平均値の差

障害分類	n	SIM①		SIM②		SIM①	SIM②	FIM		
		befor	after	befor	after	利得	利得	befor	after	利得
身体障害 Ave.	64	48.8	64.9	49.2	65.3	16.1	16.2	104.5	112.7	8.2
精神障害 Ave.	40	46.6	62.2	49.4	62.4	15.7	13.0	106.1	112.3	6.1
自由度(φ)		102	102	102	102	102	102	102	102	102
t値		0.68	0.80	0.07	0.92	0.24	1.75	0.47	0.17	1.50
p値(両側)		0.500	0.426	0.945	0.359	0.811	0.082	0.641	0.868	0.136
結果		-	-	-	-	-	-	-	-	-

\*\*\*<0.01    \*<0.05

SIM①+SIM② 利得

障害詳細	健康管理	金銭管理	身の回り	買い物	家事活動	調理	セルフマネ	移動	人間関係	仕事/学校	余暇活動	日中活動	制度活用
身体障害 n	128	128	128	128	106	79	128	128	128	89	128	128	127
精神障害 n	80	80	80	80	74	54	80	80	80	54	80	80	79
身体障害 Ave.	1.1	0.7	0.8	1.1	1.2	1.3	1.2	2.2	1.0	1.7	1.0	1.6	1.4
精神障害 Ave.	0.9	0.9	0.8	0.8	1.0	0.9	1.1	1.2	1.4	1.5	1.3	1.2	1.5
自由度(φ)	206	206	206	206	178	131	206	206	206	141	206	206	204
t値	1.66	1.43	0.32	2.42	1.11	2.22	0.74	4.45	2.56	0.47	1.55	1.84	0.76
p値(両側)	0.099	0.153	0.748	0.016	0.270	0.028	0.459	0.000	0.011	0.640	0.124	0.068	0.447
結果	-	-	-	*	-	*	-	**	*	-	-	-	-

\*\*\*<0.01    \*<0.05

表 11 障害別利得差の比較 (障害種別詳細)

(参考)平均値

障害詳細	n	SIM①		SIM②		SIM①	SIM②	FIM		
		befor	after	befor	after	利得	利得	befor	after	利得
片麻痺(高次脳・失語なし)	13	50.0	65.5	50.4	69.6	15.5	19.2	105.1	115.7	10.6
片麻痺(高次脳あり)	18	44.0	58.3	44.9	59.8	14.3	14.9	103.7	111.3	7.7
片麻痺(失語あり)	16	43.3	61.0	44.8	60.6	17.7	15.7	100.4	109.2	8.8
脊椎損傷(車椅子利用)	10	56.3	73.9	56.0	70.4	17.5	14.4	102.4	110.6	8.2
視覚障害	7	60.4	76.5	57.7	75.2	16.1	17.5	118.0	122.0	4.0
聴覚障害	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
知的障害	8	41.9	56.8	46.6	57.5	14.9	11.0	106.9	111.9	5.0
精神障害	17	46.1	60.3	50.3	60.6	14.1	10.3	105.5	112.3	6.8
発達障害	7	39.6	56.5	44.5	57.3	16.9	12.8	93.9	102.0	8.1
高次脳機能障害(身体なし)	16	50.1	66.8	50.5	66.5	16.7	15.9	112.1	116.7	4.6

表 12 利用形態別利得差の比較

3.利用形態別の平均値の差

利用形態	n	SIM①		SIM②		SIM①	SIM②	FIM		
		befor	after	befor	after	利得	利得	befor	after	利得
施設入所 Ave.	54	44.3	60.9	45.6	61.4	16.6	15.8	102.7	111.3	8.6
通所 Ave.	50	51.2	67.4	53.4	67.5	16.2	14.1	108.2	114.5	6.3
自由度(φ)		102	102	102	102	102	102	102	102	102
t値		2.32	2.15	2.70	2.14	0.26	0.97	1.85	1.29	1.77
p値(両側)		0.022	0.034	0.008	0.035	0.797	0.335	0.067	0.200	0.079
結果		*	*	**	*	-	-	-	-	-

※\*\*<0.01 \*<0.05

SIM①+SIM② 利得														
利用形態	n	健康管理	金銭管理	身の回り	買い物	家事活動	調理	セルフマネ	移動	人間関係	仕事/学校	余暇活動	日中活動	制度活用
施設入所 n	108	108	108	108	108	100	75	108	108	108	82	108	108	108
通所 n	100	100	100	100	100	80	50	100	100	100	61	100	100	98
施設入所 Ave.	1.2	0.8	1.0	1.3	1.3	1.3	1.4	1.9	1.1	1.5	0.9	1.3	1.3	1.3
通所 Ave.	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	1.1	1.0	1.8	1.4	1.9	1.3	1.7	1.5	1.5
自由度(φ)	206	206	206	206	178	123	206	206	206	141	206	206	204	204
t値	3.16	0.13	2.49	4.00	3.86	1.16	3.18	0.84	2.13	1.45	2.15	1.91	1.50	1.50
p値(両側)	0.002	0.898	0.014	0.000	0.000	0.248	0.002	0.401	0.034	0.148	0.033	0.057	0.135	0.135
結果		**	-	*	**	**	-	**	-	*	-	*	-	-

(参考)

利用形態	n	SIM①		SIM②		SIM①	SIM②	FIM		
		befor	after	befor	after	利得	利得	befor	after	利得
訪問支援 Ave.	4	40.8	48.5	42.5	50.5	7.8	8.0	88.5	95.0	6.5
宿泊型 Ave.	4	50.9	60.4	47.9	60.3	9.5	12.4	119.5	121.0	1.5

表 13 性別別利得差の比較

4.性別の平均値の差

性別	n	SIM①		SIM②		SIM①	SIM②	FIM		
		befor	after	befor	after	利得	利得	befor	after	利得
男性 Ave.	79	47.2	63.4	49.0	64.4	16.2	15.3	105.1	111.7	6.6
女性 Ave.	33	48.3	63.3	49.0	62.2	14.9	13.1	105.6	114.4	8.8
自由度(φ)		110	110	110	110	110	110	110	110	110
t値		0.35	0.04	0.00	0.67	0.67	1.19	0.13	0.95	1.61
p値(両側)		0.724	0.967	0.998	0.507	0.503	0.238	0.894	0.346	0.110
結果		-	-	-	-	-	-	-	-	-

※\*\*<0.01 \*<0.05

SIM①+SIM② 利得														
性別	n	健康管理	金銭管理	身の回り	買い物	家事活動	調理	セルフマネ	移動	人間関係	仕事/学校	余暇活動	日中活動	制度活用
男性 n	158	158	158	158	136	93	158	158	158	113	158	158	156	156
女性 n	68	68	68	68	62	48	68	68	68	68	40	68	68	68
男性 Ave.	1.0	0.8	0.9	1.0	1.1	1.0	1.3	1.9	1.2	1.7	1.2	1.4	1.5	1.5
女性 Ave.	1.0	0.8	0.7	0.9	0.9	1.4	0.9	1.4	1.0	1.5	1.0	1.3	1.2	1.2
自由度(φ)	224	224	224	224	196	139	224	224	224	151	224	224	222	222
t値	0.02	0.40	0.86	0.11	0.81	2.10	2.12	1.85	1.10	0.54	0.95	0.34	1.47	1.47
p値(両側)	0.987	0.690	0.389	0.914	0.419	0.038	0.035	0.066	0.274	0.587	0.341	0.735	0.144	0.144
結果		-	-	-	-	*	*	-	-	-	-	-	-	-

※\*\*<0.01 \*<0.05

表 14 進路別利得差の比較

5.進路の平均値の差

サービスの種類	n	SIM①		SIM②		SIM①	SIM②	FIM		
		befor	after	befor	after	利得	利得	befor	after	利得
地域復帰 Ave.	72	44.9	59.2	46.1	59.3	14.3	13.2	102.8	110.0	7.2
就労または復学 Ave.	40	52.2	70.9	54.3	71.6	18.7	17.3	109.7	117.0	7.3
自由度(φ)		110	110	110	110	110	110	110	110	110
t値		2.42	3.93	2.72	4.26	2.45	2.42	2.16	2.64	0.06
p値(両側)		0.017	0.000	0.008	0.000	0.016	0.017	0.033	0.010	0.954
結果		*	**	**	**	*	**	*	**	-

※\*\*<0.01 \*<0.05

SIM①+SIM② 利得														
サービスの種類	n	健康管理	金銭管理	身の回り	買い物	家事活動	調理	セルフマネ	移動	人間関係	仕事/学校	余暇活動	日中活動	制度活用
地域復帰 n	144	144	144	144	128	93	144	144	144	75	144	144	144	143
就労または復学 n	80	80	80	80	68	46	80	80	80	78	80	80	80	79
地域復帰 Ave.	1.0	0.8	0.8	1.0	1.0	1.1	1.1	1.5	1.1	1.0	1.0	1.3	1.1	1.1
就労または復学 Ave.	1.0	0.8	0.9	1.0	1.2	1.1	1.3	2.2	1.3	2.2	624.7	1.6	635.7	1.1
自由度(φ)	222	222	222	222	194	137	222	222	222	151	222	222	220	220
t値	0.01	0.38	1.00	0.05	1.62	0.06	1.45	3.39	1.29	5.23	1.03	1.46	4.74	4.74
p値(両側)	0.992	0.707	0.318	0.957	0.106	0.954	0.148	0.001	0.197	0.000	0.306	0.146	0.000	0.000
結果		-	-	-	-	-	-	**	-	**	-	-	**	**

※\*\*<0.01 \*<0.05

表 15 検者間の項目別完全一致率

Before	n=	①完全一致	②誤差±1	①+②	After	n=	完全一致	誤差±1	①+②	合計	n=	完全一致
健康管理	112	76 67.9%	24 21.4%	100 89.3%	健康管理	112	66 58.9%	42 37.5%	108 96.4%	健康管理	224	142 63.4%
金銭管理	112	65 58.0%	27 24.1%	92 82.1%	金銭管理	112	71 63.4%	23 20.5%	94 83.9%	金銭管理	224	136 60.7%
身の回り	112	62 55.4%	31 27.7%	93 83.0%	身の回り	112	69 61.6%	26 23.2%	95 84.8%	身の回り	224	131 58.5%
買い物	112	61 54.5%	24 21.4%	85 75.9%	買い物	112	75 67.0%	28 25.0%	103 92.0%	買い物	224	136 60.7%
家事活動	98	59 60.2%	21 21.4%	80 81.6%	家事活動	99	64 64.6%	24 24.2%	88 88.9%	家事活動	197	123 62.4%
調理	68	42 61.8%	15 22.1%	57 83.8%	調理	70	43 61.4%	19 27.1%	62 88.6%	調理	138	85 61.6%
セルフマネ	112	71 63.4%	28 25.0%	99 88.4%	セルフマネ	112	70 62.5%	36 32.1%	106 94.6%	セルフマネ	224	141 62.9%
移動	112	73 65.2%	26 23.2%	99 88.4%	移動	112	76 67.9%	28 25.0%	104 92.9%	移動	224	149 66.5%
人間関係	112	69 61.6%	33 29.5%	102 91.1%	人間関係	112	63 56.3%	37 33.0%	100 89.3%	人間関係	224	132 58.9%
仕事/学校	77	45 58.4%	22 28.6%	67 87.0%	仕事/学校	77	48 62.3%	18 23.4%	66 85.7%	仕事/学校	154	93 60.4%
余暇活動	112	69 61.6%	23 20.5%	92 82.1%	余暇活動	112	71 63.4%	24 21.4%	95 84.8%	余暇活動	224	140 62.5%
日中活動	112	75 67.0%	24 21.4%	99 88.4%	日中活動	112	65 58.0%	29 25.9%	94 83.9%	日中活動	224	140 62.5%
制度活用	111	73 65.8%	27 24.3%	100 90.1%	制度活用	76	44 57.9%	25 32.9%	69 90.8%	制度活用	187	117 62.6%

表 16 試行版 SIM との項目比較

試行版SIM項目		チェックシート	社会生活力を高めるプログラム
毎日の生活維持のための項目	1. 健康管理	①日常生活の困り事	自分と病気・障害の理解 健康管理
	2. 金銭管理	①日常生活の困り事	食生活 金銭管理
	3. 身の回りの管理	①日常生活の困り事	安全・危機管理 服装
	4. 買い物	①日常生活の困り事	買い物
	5. 家事活動(調理含まず)【選択】	①日常生活の困り事	掃除・整理
	6. 調理【選択】	①日常生活の困り事	食生活
	7. 生活のセルフマネジメント	①日常生活の困り事	生活リズム 住まい
社会の一員として積極的に参加するための項目	8(1)公共交通機関の利用		外出・余暇活動
	8(2)自動車運転【いずれか選択】		
社会の一員として積極的に参加するための項目	9. 人間関係	③⑥住民・同僚への説明 ⑤地域活動、サークル参加 ⑦人間関係・自信 (人間関係の部分)	コミュニケーション 友人関係 家族関係 結婚・子育て
	10. 仕事/学校【選択】	③⑥住民・同僚への説明	コミュニケーション 就労生活 教育と学習
共通項目	11. 余暇活動	②サービス活用し社会参加 ③⑥住民・同僚への説明 ⑤地域活動、サークル参加 ⑧当事者団体の活動	コミュニケーション 地域生活・社会参加 外出・余暇活動
	12. 日中活動	②サービス活用し社会参加 ③⑥住民・同僚への説明 ⑤地域活動、サークル参加 ⑧当事者団体の活動	コミュニケーション 地域生活・社会参加
共通項目	13. 制度・サービス活用	②サービス活用し社会参加	地域生活サービス 障害や介護の制度 権利擁護 支援者との関係

社会生活の自立度評価SIM

項目	点数		
	利用時	終了前	
維持するための項目	1. 健康管理	必須	
	2. 金銭管理	必須	
	3. 身の回りの管理	必須	
	4. 買い物(買い物先までの移動を除く)	必須	
	5. 家事活動(調理含まず)	選択	
	6. 調理	選択	
	7. 生活のセルフマネジメント	必須	
社会の一員として積極的に参加するための項目	8 (1)公共交通機関を利用しての外出 (2)自動車運転	1つを選択	
	9. 人間関係	必須	
共通項目	10. 仕事/学校	選択	
	11. 地域での余暇活動	必須	
	12. 日中活動	必須	
	13. 制度・サービス活用	必須	
合計合計(10~91)			

採点基準(目安)

自立	継続自立	7点	安定性や対応力が高い自立レベル
自立	自立	6点	現段階で自立している場合 (店員や窓口担当等に問い合わせる等、通常ある人的資源の活用を含む)
	見守り 限定した活動状態	5点	見守り、時々への促し・助言が必要な状態 見守り等は必要ないが、限定的な活動となっている状態
部分的支援が必要	最小支援	4点	少しの支援を必要とする状態(75%以上自分で行う)
	中等度支援	3点	部分的に支援を必要とする状態(50%以上75%未満自分で行う)
全面的な支援が必要	最大支援	2点	多くの支援を必要とする状態(25%以上50%未満自分で行う)
	全面支援	1点	殆どの支援を必要とする状態(25%未満しか自分で行えない)

※7点、6点は、自助具の活用、自らが選択、利用、指示、調整して介助サービス等を利用する場合は含まれる。  
 ※1点~4点の( )内の「自分で行う」も、自助具の活用、自らが選択、利用、指示、調整して介助サービス等を利用する場合は含まれる。なお、選択項目の「5. 家事活動」「6. 調理」は介助サービス等の利用は含まない。  
 ※%は、行えている項目の数や行えている程度の割合を基に総合的に判断する。  
 ※実行状況の評価であるため、利用者の意思や意欲は大きいに加味される。能力はあるが実行の意思が低く声かけが必要な場合も5以下となる。

図1 客観評価ができそうな小項目を対象としたICFによるカテゴライズ図

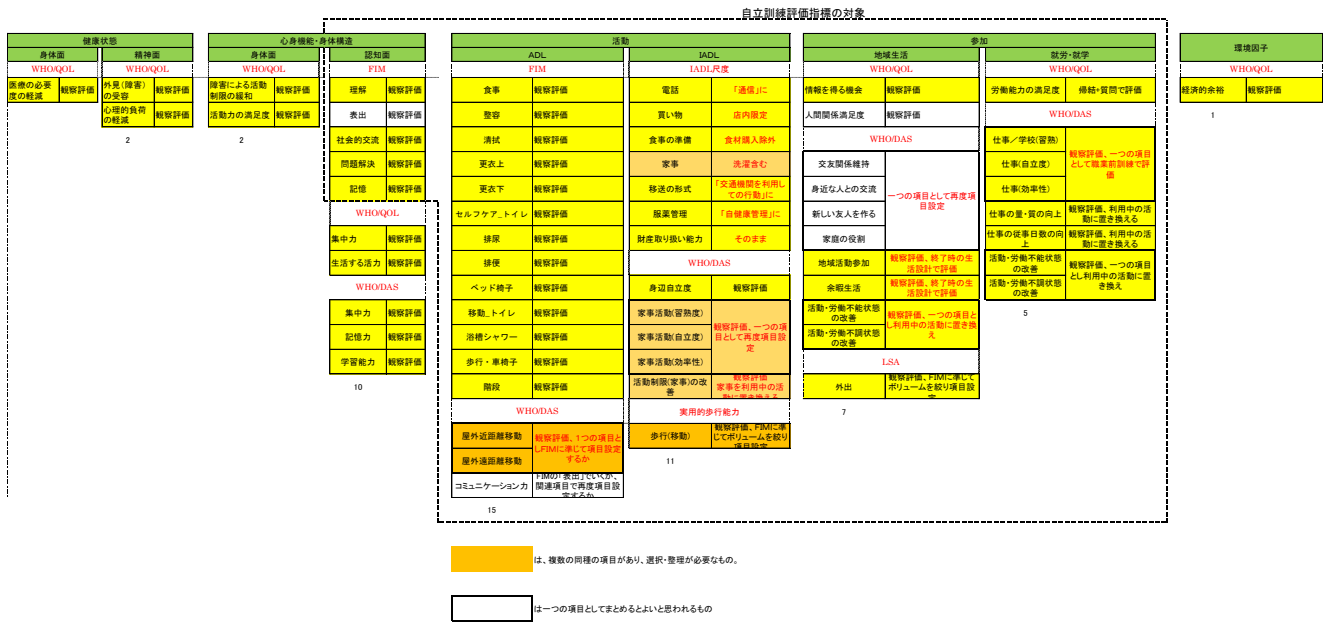


図2 『社会生活力プログラム・マニュアル』のモジュール項目に基いたオリジナル評価指標項目案

社会生活力プログラム・マニュアルのモジュール		対応する7つの評価指標の活動、参加の項目(主観評価を除く)						オリジナル評価指標の項目案		項目数					
生活の基礎を作る	1.健康管理	IADL尺度	自分の服薬管理						1.自己健康管理 2.食事の準備(食材の購入含まず) 3.身辺自立度(数日間一人で過ごす、安全)	3					
	2.食生活	IADL尺度	食事の準備					4.金銭・財産取り扱い 5.身の回りの管理(安全、服装、すまい等) 6.家事活動(調理含まず) 7.買い物(買い物先までの移動除く)			4				
	3.セルフケア	WHO/DAS	【セルフケア】 数日間一人で過ごす									8.人間関係  (11.自分の理解、12.障害の理解⇒他の行動項目に変化が現れるため省略する)  (14.コミュニケーションはFIMを採用するか、しない場合は項目追加を行う)	1		
	4.生活リズム	WHO/DAS	【セルフケア】 数日間一人で過ごす(再)											9.仕事/学校(複数項目設定)  (17.恋愛・結婚・子育ては「人間関係」の細目となるため省略する)	5
	5.安全・危機管理	IADL尺度	財産取り扱い能力												
6.金銭管理	IADL尺度	家事	WHO/DAS	【日常生活】 最も大切な家事をうまくする	【日常生活】 なるべく全ての家事労働を片付ける	【日常生活】 必要に応じてできるだけ早く家事労働を終わらせる	【日常生活】 健康状態により、過去30日間に何日かだけ早く家事労働を減らしたり、または休んだりしましたか(日数)		4						
7.すまい	IADL尺度	買い物	IADL尺度	【日常生活】 最も大切な仕事/学校の課題をうまくする	【日常生活】 なるべく全ての仕事を済ます	【日常生活】 必要に応じてできるだけ早く仕事を済ます	【日常生活】 健康状態により、過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)	5							
8.掃除・整理	IADL尺度	人間関係に満足していますか	WHO/DAS	【他者交流】 友人関係を保つ	【他者交流】 新しい人々と交流をする	【他者交流】 新しい友人を作る	【日常生活】 健康状態により、過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)			1					
9.買い物	IADL尺度	電話を使用する能力	WHO/DAS	【他者交流】 見知らぬ人に対応する	FIM	理解	表出				社会的交流	1			
10.服薬	IADL尺度	移動の形式	WHO/DAS	【社会参加】 リテラスしたり、素人になりするために、自分で何かを行うのに、どれくらい問題がありましたか	LSA	この4週間…(自宅、屋外、近所、離れた、町外)	実用的歩行能力分類				歩行不能⇒公共交通機関自立		5		
11.自分の理解	WHO/DAS	【日常生活】 最も大切な仕事/学校の課題をうまくする	WHO/DAS	【日常生活】 最も大切な仕事/学校の課題をうまくする	【日常生活】 なるべく全ての仕事を済ます	【日常生活】 必要に応じてできるだけ早く仕事を済ます	【日常生活】 健康状態により、過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)		5						
12.障害の理解	WHO/DAS	【日常生活】 最も大切な仕事/学校の課題をうまくする	WHO/DAS	【日常生活】 最も大切な仕事/学校の課題をうまくする	【日常生活】 なるべく全ての仕事を済ます	【日常生活】 必要に応じてできるだけ早く仕事を済ます	【日常生活】 健康状態により、過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)	5							
13.人間関係	WHO/QOL	毎日の生活に必要な情報などをとるのくいとができますか	WHO/DAS	【社会参加】 誰かができるより自分でできる活動に加わるのに、どれくらい問題がありましたか	【社会参加】 健康状態のために、過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)(再)	全くできなかった日を除いて、健康状態により過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)(再)	【日常生活】 健康状態により、過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)			5					
14.コミュニケーション	IADL尺度	【社会参加】 誰かができるより自分でできる活動に加わるのに、どれくらい問題がありましたか	WHO/DAS	【社会参加】 誰かができるより自分でできる活動に加わるのに、どれくらい問題がありましたか	【社会参加】 健康状態のために、過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)(再)	全くできなかった日を除いて、健康状態により過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)(再)	【日常生活】 健康状態により、過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)				5				
15.教育と学習	WHO/DAS	【日常生活】 最も大切な仕事/学校の課題をうまくする	WHO/DAS	【社会参加】 誰かができるより自分でできる活動に加わるのに、どれくらい問題がありましたか	【社会参加】 健康状態のために、過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)(再)	全くできなかった日を除いて、健康状態により過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)(再)	【日常生活】 健康状態により、過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)					5			
16.就労生活	WHO/QOL	【日常生活】 最も大切な仕事/学校の課題をうまくする	WHO/DAS	【社会参加】 誰かができるより自分でできる活動に加わるのに、どれくらい問題がありましたか	【社会参加】 健康状態のために、過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)(再)	全くできなかった日を除いて、健康状態により過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)(再)	【日常生活】 健康状態により、過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)		5						
17.恋愛・結婚・子育て	WHO/QOL	【日常生活】 最も大切な仕事/学校の課題をうまくする	WHO/DAS	【社会参加】 誰かができるより自分でできる活動に加わるのに、どれくらい問題がありましたか	【社会参加】 健康状態のために、過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)(再)	全くできなかった日を除いて、健康状態により過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)(再)	【日常生活】 健康状態により、過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)	5							
18.外出・余暇活動	IADL尺度	【日常生活】 最も大切な仕事/学校の課題をうまくする	WHO/DAS	【社会参加】 誰かができるより自分でできる活動に加わるのに、どれくらい問題がありましたか	【社会参加】 健康状態のために、過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)(再)	全くできなかった日を除いて、健康状態により過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)(再)	【日常生活】 健康状態により、過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)			5					
19.地域生活・社会参加	WHO/QOL	【日常生活】 最も大切な仕事/学校の課題をうまくする	WHO/DAS	【社会参加】 誰かができるより自分でできる活動に加わるのに、どれくらい問題がありましたか	【社会参加】 健康状態のために、過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)(再)	全くできなかった日を除いて、健康状態により過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)(再)	【日常生活】 健康状態により、過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)				5				
20.社会保障制度	WHO/QOL	【日常生活】 最も大切な仕事/学校の課題をうまくする	WHO/DAS	【社会参加】 誰かができるより自分でできる活動に加わるのに、どれくらい問題がありましたか	【社会参加】 健康状態のために、過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)(再)	全くできなかった日を除いて、健康状態により過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)(再)	【日常生活】 健康状態により、過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)					5			
21.障害福祉制度・サービス	WHO/QOL	【日常生活】 最も大切な仕事/学校の課題をうまくする	WHO/DAS	【社会参加】 誰かができるより自分でできる活動に加わるのに、どれくらい問題がありましたか	【社会参加】 健康状態のために、過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)(再)	全くできなかった日を除いて、健康状態により過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)(再)	【日常生活】 健康状態により、過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)		5						
22.介護保険制度・サービス	WHO/QOL	【日常生活】 最も大切な仕事/学校の課題をうまくする	WHO/DAS	【社会参加】 誰かができるより自分でできる活動に加わるのに、どれくらい問題がありましたか	【社会参加】 健康状態のために、過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)(再)	全くできなかった日を除いて、健康状態により過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)(再)	【日常生活】 健康状態により、過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)	5							
23.支援の活用	WHO/QOL	【日常生活】 最も大切な仕事/学校の課題をうまくする	WHO/DAS	【社会参加】 誰かができるより自分でできる活動に加わるのに、どれくらい問題がありましたか	【社会参加】 健康状態のために、過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)(再)	全くできなかった日を除いて、健康状態により過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)(再)	【日常生活】 健康状態により、過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)			5					
24.権利の行使と擁護	WHO/QOL	【日常生活】 最も大切な仕事/学校の課題をうまくする	WHO/DAS	【社会参加】 誰かができるより自分でできる活動に加わるのに、どれくらい問題がありましたか	【社会参加】 健康状態のために、過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)(再)	全くできなかった日を除いて、健康状態により過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)(再)	【日常生活】 健康状態により、過去30日間に何日かだけ早く仕事を済ませなかったか(日数)				5				

赤字...7つの評価指標には該当項目なし

※自立訓練の目的から、シート(表3)では、「IADL」「IADL」「地域生活」「就労・就学」の4つの項目をみたが、ADLではFIMを採用できずであるが、それ以外の項目では採用するに十分な評価指標が見当たらない。また、仮にカテゴリごとに別々の指標を使用した場合、事業所の負担が非常に大きくなることから、①「IADL」「IADL」「地域生活」「就労・就学」をすべてを統合したオリジナルの評価指標を作成するか、②「ADL」はFIMを採用し、それ以外のオリジナルの指標を作成するか、の選択になると考えた(この場合、障害特性に応じて、FIMの認知項目のみ採用することも検討が必要である)。  
 ※また、これまでの議論にはないが、新たな指標を作成することの課題や負担の大きさから、③設問の形や内容に課題があるもの、どのカテゴリにも網羅的に項目があったWHO/DASを採用するという選択も再検討しても良いかもしれない。  
 ※「IADL」「地域生活」の範囲や内容が不明なため、それらを具体的に示した「社会生活力プログラム・マニュアルⅣ」の24の項目と、シート(表3)の活動、参加に当てはまる客観評価が可能と思われる項目を当てはめたところ、カテゴリごとでは項目数に偏りがあるものの、「自分の権利を生きる」以外のカテゴリでは、一部の項目を除き、対応する項目があったため、「社会生活力プログラム・マニュアルⅣ」の24の項目を評価指標の質問項目の柱とすることに一定程度の妥当性が感じられた。(「社会生活力プログラム・マニュアルⅣ」は学習用のテキストであり、妥当性を測ることができるものであるか、という疑問は残るものの、他に適当なものが見当たらない)  
 ※右に、それを踏まえ項目を整理し直した(対応する項目がない部分の列を赤で示した)。  
 ※現段階では再整理された項目数がカテゴリごとにばらつきがある状態となっている(社会生活力プログラム・マニュアルは、5つのカテゴリに分かれており、各5つのテーマが設定されているが、「自分の障害を理解する」のみが4つの設定となっている。WHO/DASでは、カテゴリごとの質問項目は、「認知16」、「セルフケア」4、「他者交流」5、「日常生活」12、「社会参加」18、「カテゴリなし」3と、揃ってはいないという例もある)。  
 ※①、②の場合は、まずは右の項目を精査し、その上で、相対する評価指標項目を参考にしながら、統一した採点方法によるオリジナルな指標を作成することになるが、各項目の採点基準に基づいて苦勞すると思われる。

図3 事業形態別利得差の比較(グラフ)

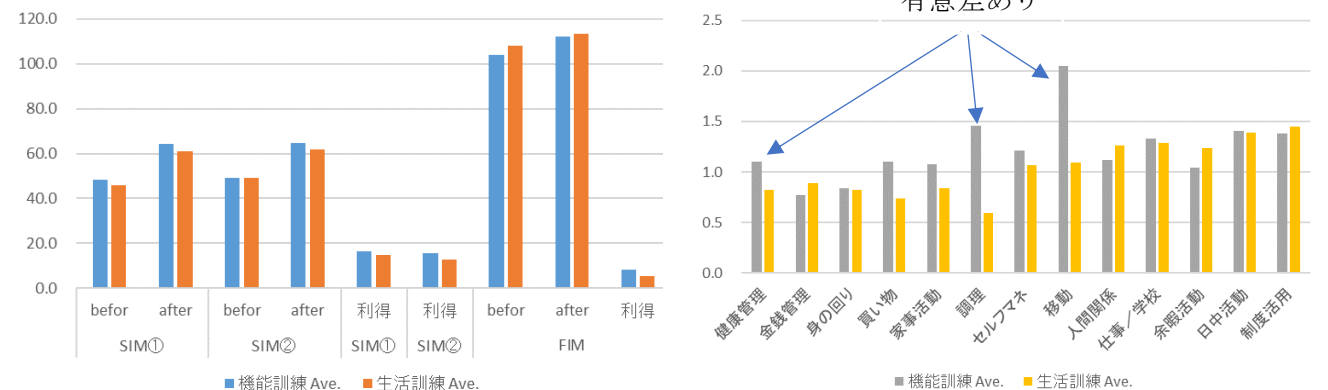


図4 障害別利得差の比較

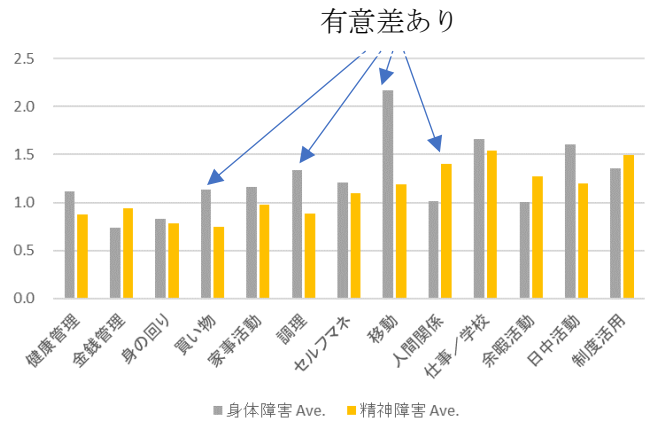
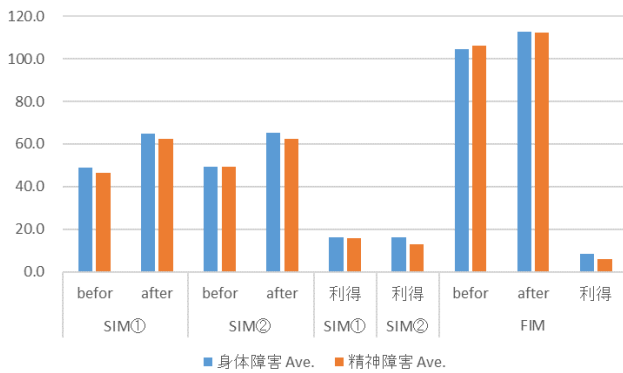


図5 利用形態別利得差の比較

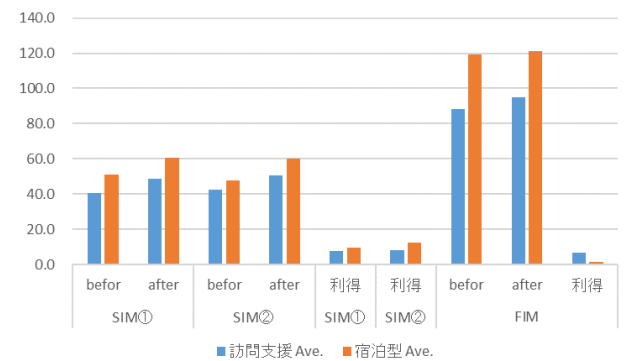
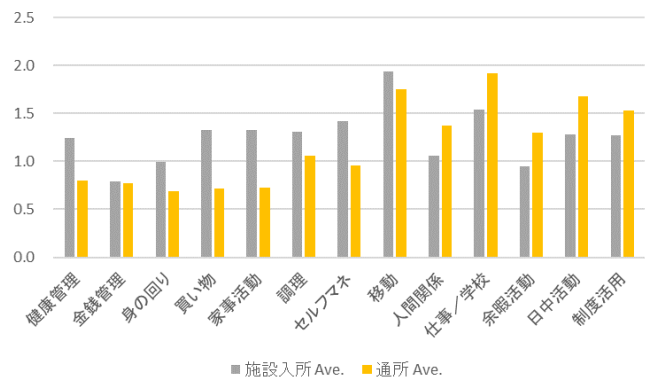
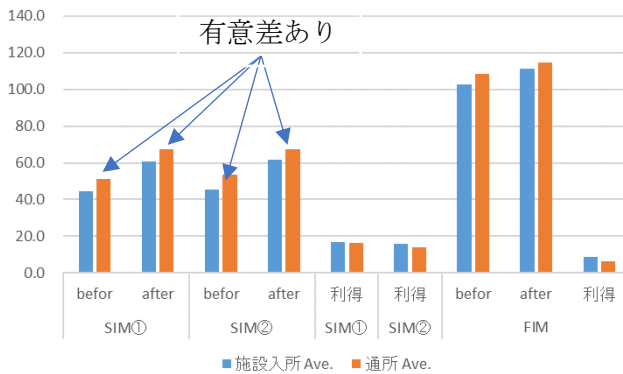


図6 性別別利得差の比較

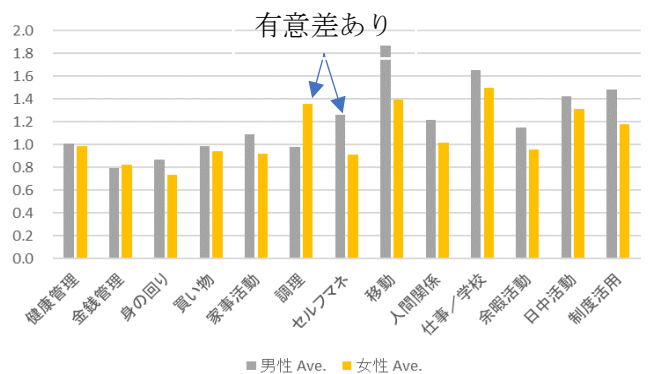
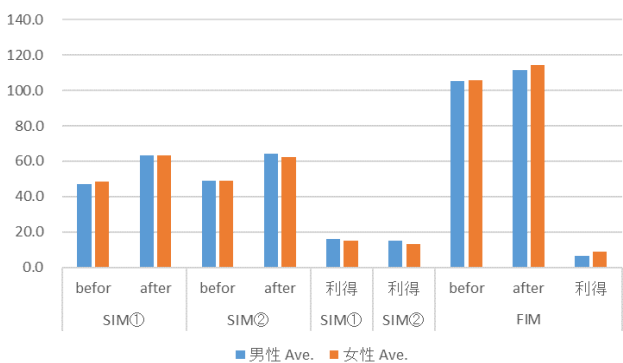


図7 進路別利得差の比較

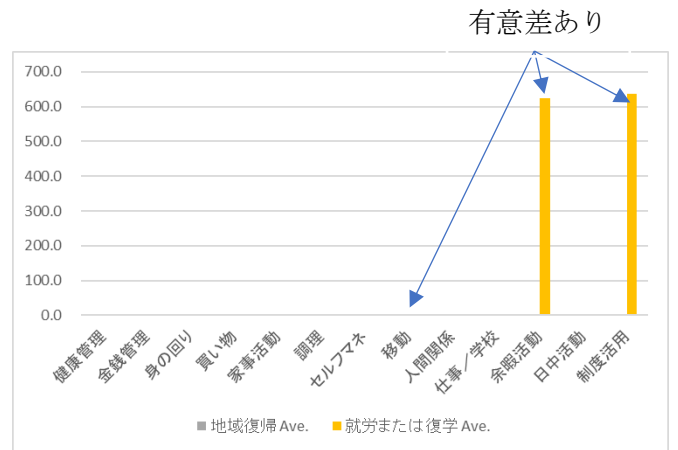
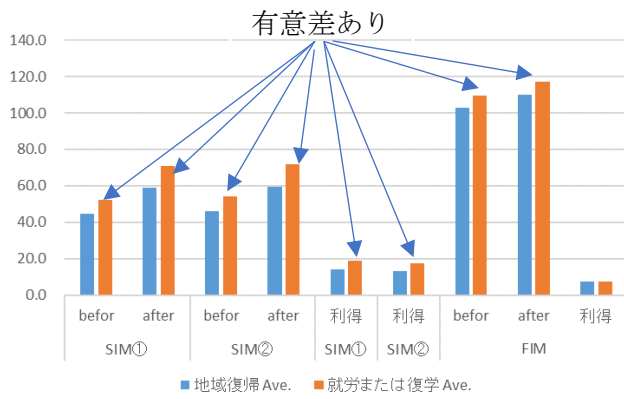


図8 利用日数と利得値の関係

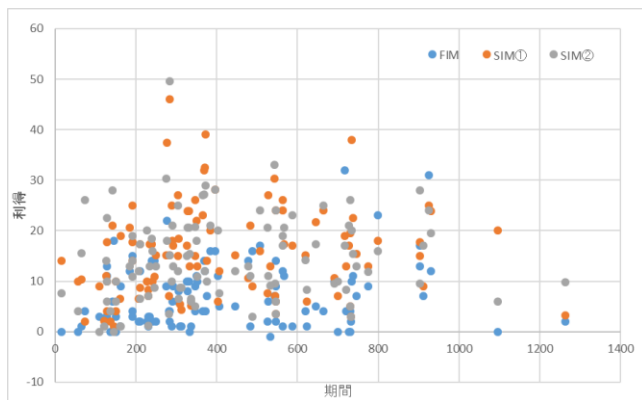


図9 社会生活力を高めるプログラムの実施

